

山梨市住民意向調査 報告書

平成 23 年 3 月



財団法人 山梨総合研究所

目 次

1. 調査概要	1
① 調査の目的.....	1
② 調査時期.....	1
③ 調査対象.....	1
④ 調査方法.....	1
⑤ アンケート内容.....	1
⑥ 回収結果.....	2
⑦ 本報告書中の記号、調査結果の数値について.....	2
2. 回答者の属性（SA）	3
① 性別.....	3
② 年齢.....	4
③ 居住地区.....	5
④ 居住年数.....	6
⑤ 家族構成.....	7
⑥ 職業.....	8
⑦ 通勤・通学先.....	9
3. 山梨市の魅力・住みやすさ	10
① 山梨市の魅力について.....	10
② 山梨市の住みやすさについて.....	11
4. 満足度、重要度等	12
5. 分野ごとの各施策の必要性	14
① 環境問題やエネルギー問題に対応するための取り組み.....	14
② 産業（農林業・商業・工業）が発展するための取り組み.....	15
③ 観光を盛んにするための取り組み.....	17
④ 高齢化が進む社会に対応するための取り組み.....	18
⑤ 安心して子どもを産み育てたいと思える環境を作るための取り組み.....	21
⑥ 災害に強いまちづくりを推進するための取り組み.....	24
⑦ 学校教育・生涯学習分野での取り組み.....	25
⑧ 今後の行政体制・行政運営に対する取り組み.....	26
6. 市民と行政とのあり方について	27
① 市の窓口サービスについて.....	27
② 今後参加したい公共的な活動.....	28

③ 行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係について	31
7. 山梨市の将来像や望ましい地域イメージについて	32
8. まちづくり指標について	33
9. 男女共同参画について	34

1. 調査概要

① 調査の目的

山梨市の主な施策に対する、市民の満足度や必要度を把握し、住民のニーズに対応した施策を推進するための基礎資料とする。併せて、総合計画に示されたまちづくり指標についても確認する。

② 調査時期

アンケート期間：平成 23 年 1 月 28 日(金)～2 月 14 日(月)

※調査票回収期間は 2 月 22 日(火)まで延長した。

また、記入に際しての基準日は平成 23 年 2 月 1 日とした。

③ 調査対象

20 歳以上の市民 2,000 人を対象とした。

標本抽出方法としては、旧市町村ごとの人口に注目した比例配分法による層化無作為抽出を行った。

④ 調査方法

郵送配布・郵送回収方式

⑤ アンケート内容

大項目	小項目	対応設問	設問数
山梨市の魅力・ 住みやすさ	山梨市の魅力	問 1	1 5
	山梨市の住みやすさ	問 2	1
満足度・重要度	施策に対する満足度と重要度の認識	問 3	各 2 5
分野ごとの各施策の 必要性	環境エネルギー分野	問 4	9
	産業（農林業・商業・工業）分野	問 5	1 1
	観光分野	問 6	1 0
	高齢者福祉分野	問 7	1 1
	次世代育成（子育て）分野	問 8	9
	防災分野	問 9	1 1
	学校教育・生涯学習分野	問 1 0	1 5
市民と行政との あり方	行政体制・行政運営	問 1 1	9
	窓口サービスの向上	問 1 2	1
	今後参加したい公共活動	問 1 3	1
山梨市の将来像 と望ましい地域 イメージ	行財政改革と市民負担	問 1 4	5
	10 年後の山梨市について	問 1 5	1
まちづくり指標	総合計画に示すまちづくり指標について	問 1 6	1 0
男女共同参画の 実現	男女共同参画の認知度、状況について	問 1 7	6

⑥ 回収結果

送付数：2,000

有効回収数：924

有効回収率：46.2%

⑦ 本報告書中の記号、調査結果の数値について

(SA) …単一回答 (Single Answer) の略。選択回答は1項目のみ。

(MA) …複数回答 (Multi Answer) の略。

(一部回答を限定しているものもある。)

複数回答における回答率は100%を超える場合があります。

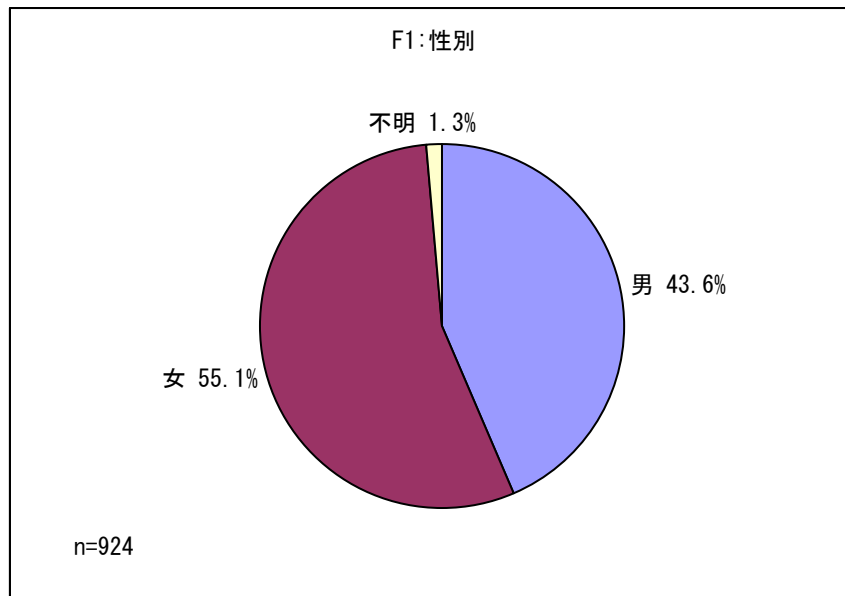
n ……回答者数 (number) をあらわす。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

※ 各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が100%にならない場合もあります。

2. 回答者の属性 (SA)

① 性別

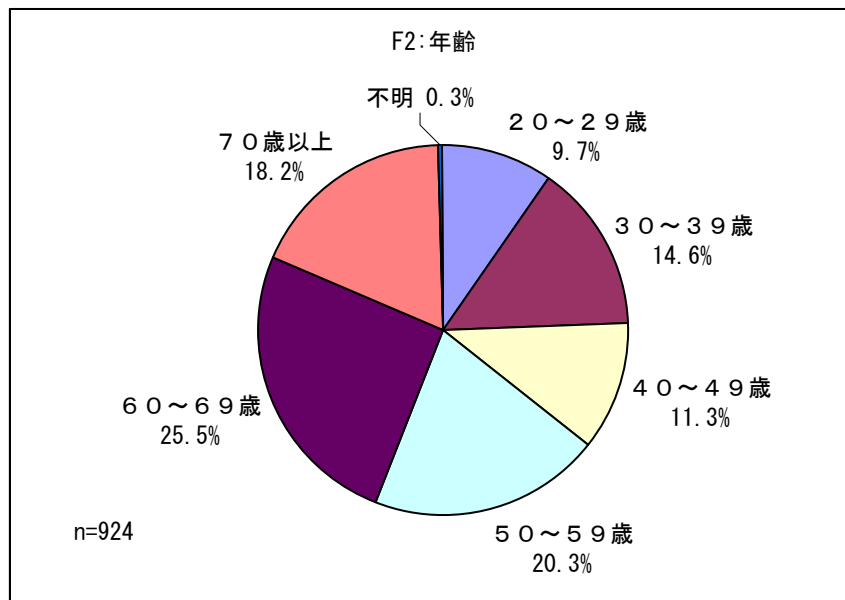
今回のアンケート調査で回答が得られた 924 人のうち、男性は 43.6%、女性が 55.1%であった。



カテゴリ	件数	(全体)%
男	403	43.6
女	509	55.1
不明	12	1.3
サンプル数 (%へ-入)	924	100

② 年齢

今回のアンケート調査に回答した市民の年齢構成は、「60歳代」が25.5%と最も高く、「50歳代」(20.3%)、「70歳以上」(18.2%)と続いた。一方、「20歳代」が9.7%と低い割合であった。

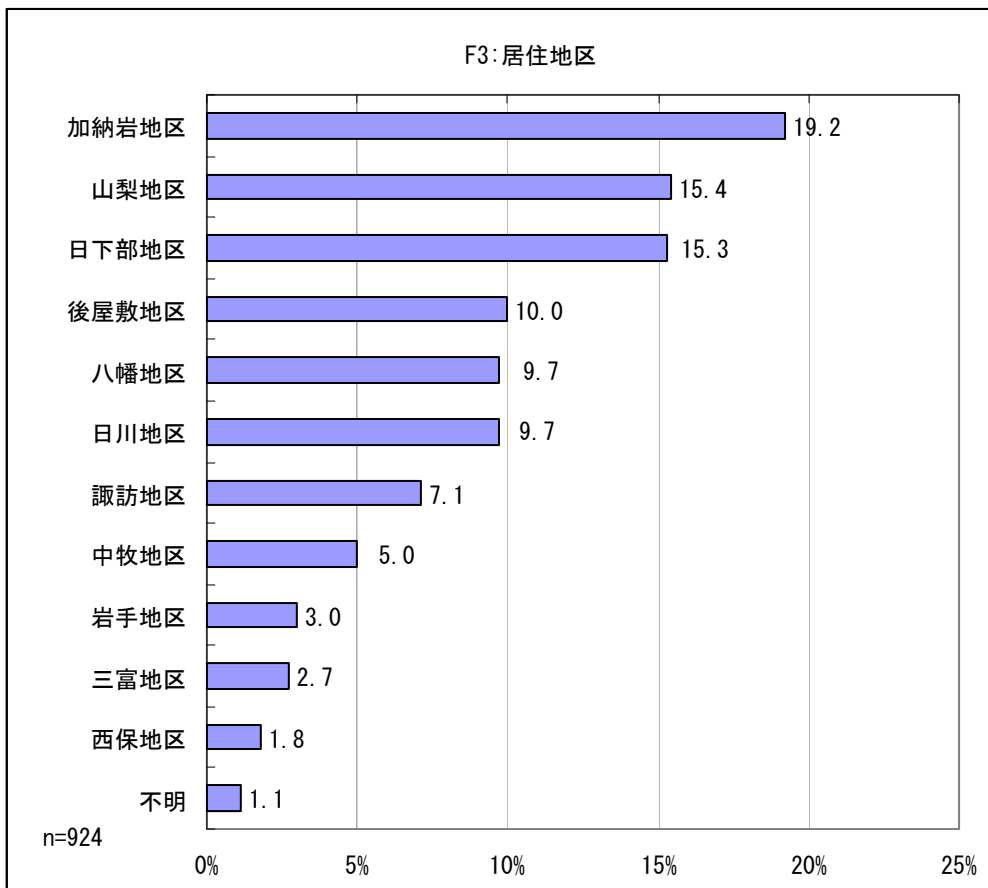


カテゴリ	件数	(全体)%
20~29歳	90	9.7
30~39歳	135	14.6
40~49歳	104	11.3
50~59歳	188	20.3
60~69歳	236	25.5
70歳以上	168	18.2
不明	3	0.3
サンプル数 (%ベース)	924	100

③ 居住地区

今回のアンケート調査に回答した市民の居住地の割合は、「加納岩地区」(19.2%)が最も高く、次いで「山梨地区」(15.4%)、「日下部地区」(15.3%)、後屋敷地区(10.0%)と続いた。

各地区の20歳以上の人口に対する回答者の割合は2.4%~3.7%となっている。

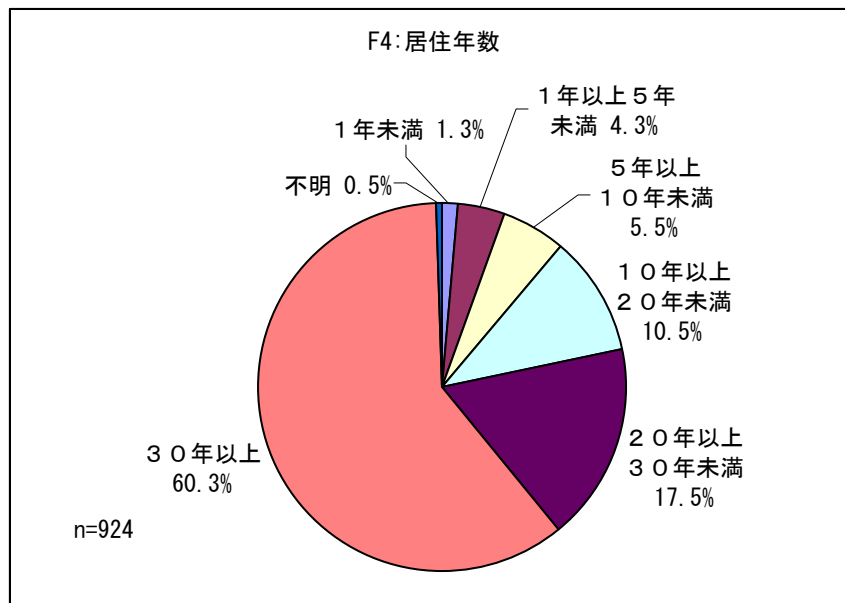


カテゴリ	件数	(全体)%
加納岩地区	177	19.2
山梨地区	142	15.4
日下部地区	141	15.3
後屋敷地区	92	10.0
八幡地区	90	9.7
日川地区	90	9.7
諏訪地区	66	7.1
中牧地区	46	5.0
岩手地区	28	3.0
三富地区	25	2.7
西保地区	17	1.8
不明	10	1.1
サンプル数 (%ベース)	924	100

地区名	① 20歳以上 人口	② 回答者数	各地区20歳 以上人口に 対する回答 者数の割合 (②/①)
加納岩	6,099	177	2.9%
日下部	5,734	141	2.5%
八幡	3,087	90	2.9%
山梨	3,880	142	3.7%
日川	2,998	90	3.0%
後屋敷	2,806	92	3.3%
岩手	991	28	2.8%
諏訪	2,482	66	2.7%
中牧	1,435	46	3.2%
西保	714	17	2.4%
三富	937	25	2.7%
合計	31,163	914	2.9%

④ 居住年数

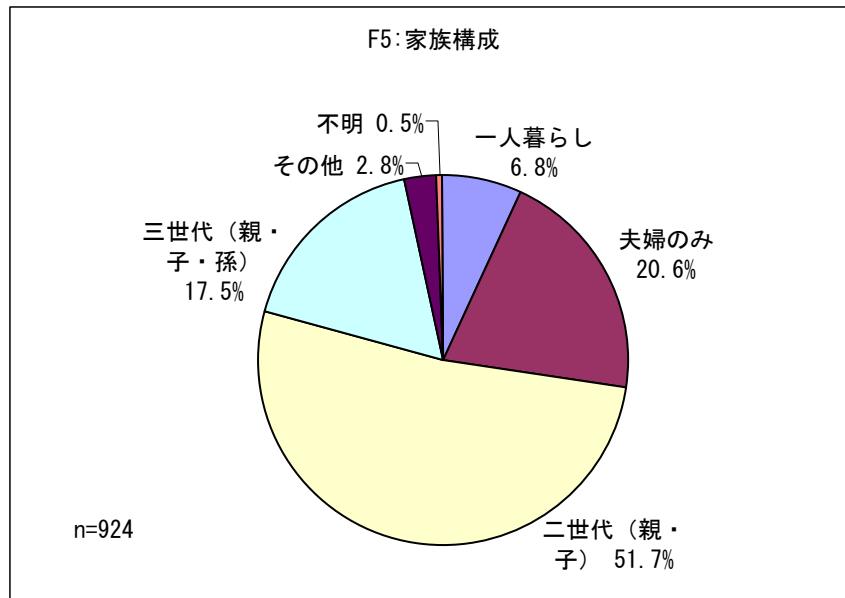
今回のアンケート調査における回答者の、山梨市（旧牧丘町・三富村を含む）への居住年数は、「30年以上」が最も高く、半数を超える60.3%を占めた。次いで「20年以上30年未満」が17.5%、「10年以上20年未満」が10.5%であった。居住年数が10年以上の回答者が、全回答者の88.3%を占めている。



カテゴリ	件数	(全体)%
1年未満	12	1.3
1年以上5年未満	40	4.3
5年以上10年未満	51	5.5
10年以上20年未満	97	10.5
20年以上30年未満	162	17.5
30年以上	557	60.3
不明	5	0.5
サンプル数 (%ベース)	924	100

⑤ 家族構成

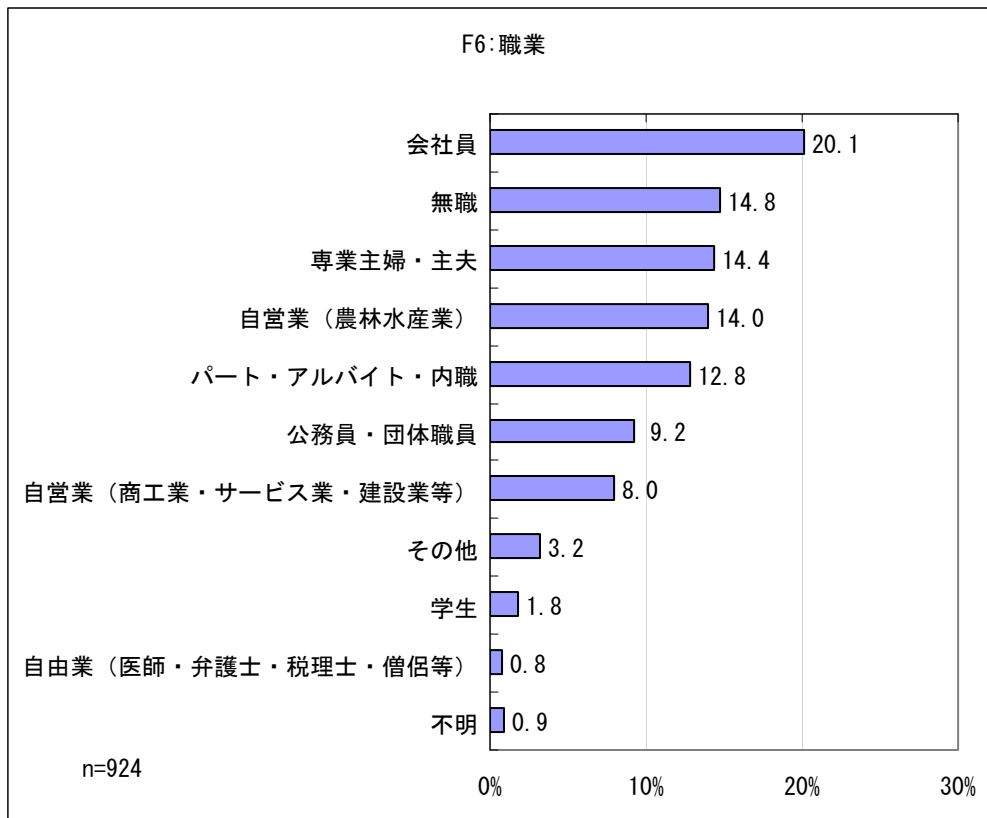
今回のアンケート調査における回答者の家族構成は、「二世代（親・子）」が最も高く51.7%を占めた。次いで「夫婦のみ」20.6%、「三世代（親・子・孫）」の17.5%の順となった。「一人暮らし」は、6.8%であった。



カテゴリ	件数	(全体)%
一人暮らし	63	6.8
夫婦のみ	190	20.6
二世代 (親・子)	478	51.7
三世代 (親・子・孫)	162	17.5
その他	26	2.8
不明	5	0.5
サンプル数 (%ベース)	924	100

⑥ 職業

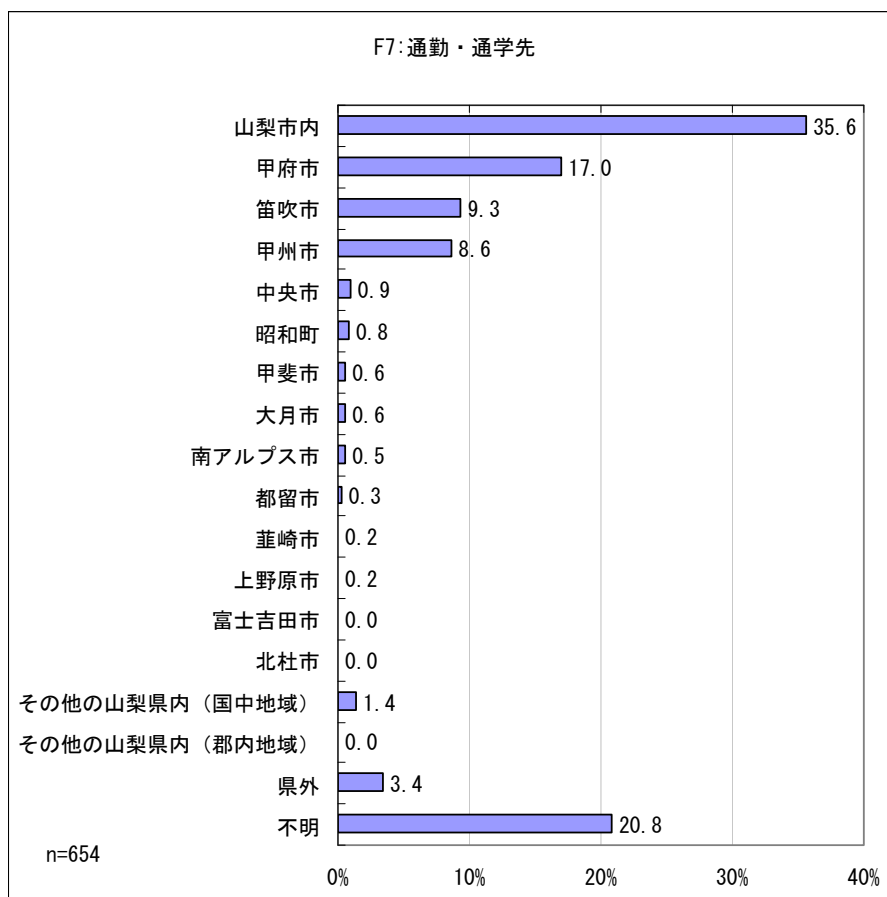
今回のアンケート調査の回答者の職業では、「会社員」が最も多く 20.1%、次いで「無職」が 14.8%、「専業主婦・主夫」が 14.4%であった。



カテゴリ	件数	(全体)%
会社員	186	20.1
無職	137	14.8
専業主婦・主夫	133	14.4
自営業 (農林水産業)	129	14.0
パート・アルバイト・内職	118	12.8
公務員・団体職員	85	9.2
自営業 (商工業・サービス業・建設業等)	74	8.0
その他	30	3.2
学生	17	1.8
自由業 (医師・弁護士・税理士・僧侶等)	7	0.8
不明	8	0.9
サンプル数 (%ベース)	924	100

⑦ 通勤・通学先

今回のアンケート調査における回答者の通勤・通学先は、山梨市内が最も多く 35.6%、続いて甲府市が 17.0%、笛吹市が 9.3%、甲州市が 8.6%であった。県外は 3.4%であった。なお、無回答 136 人 (20.8%) のうち 59 人が、職業を問う⑥で「1. 自営業 (農林水産業)」を選択している。



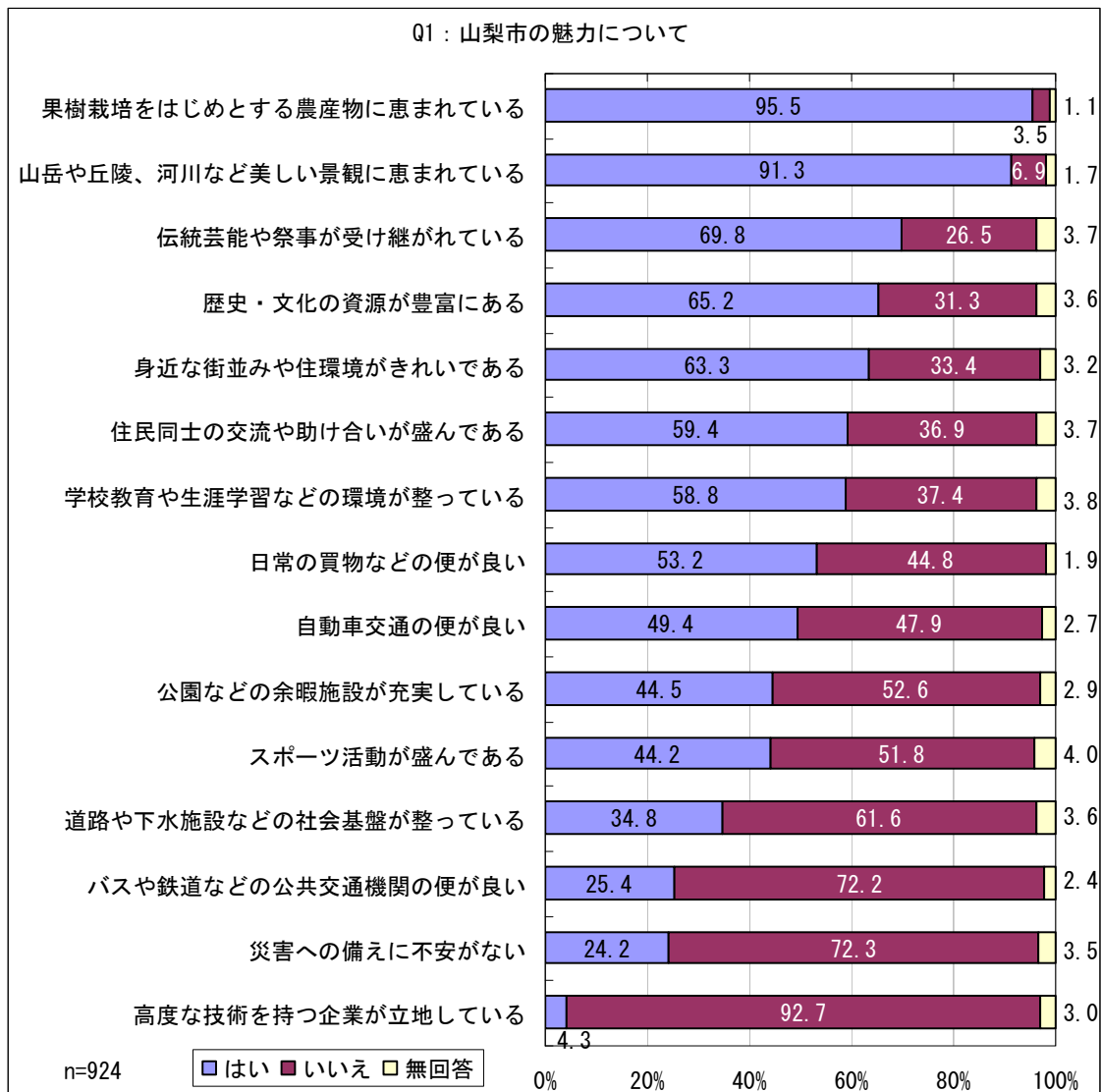
カテゴリー	件数	(全体)%
山梨市内	233	35.6
甲府市	111	17.0
笛吹市	61	9.3
甲州市	56	8.6
中央市	6	0.9
昭和町	5	0.8
甲斐市	4	0.6
大月市	4	0.6
南アルプス市	3	0.5
都留市	2	0.3
斐崎市	1	0.2
上野原市	1	0.2
富士吉田市	0	0.0
北杜市	0	0.0
その他の山梨県内 (国中地域)	9	1.4
その他の山梨県内 (郡内地域)	0	0.0
県外	22	3.4
不明	136	20.8
サンプル数 (n)	654	100

3. 山梨市の魅力・住みやすさ

① 山梨市の魅力について

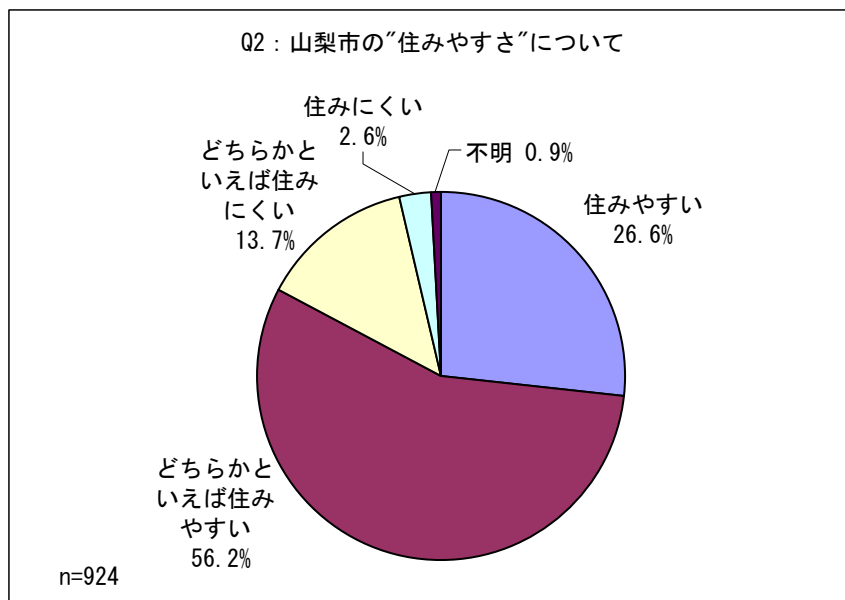
山梨市の魅力についてたずねた。肯定する「はい」という回答が最も高かったのは、「果樹栽培をはじめとする農産物に恵まれている」で95.5%、続いて「山岳や丘陵、河川など美しい景観に恵まれている」が91.3%、「伝統芸能や祭事が受け継がれている」が69.8%であった。

逆に、肯定する「はい」という回答が低かったのは、「高度な技術を持つ企業が立地している」が4.3%、「災害への備えに不安がない」が24.2%、「バスや鉄道などの公共交通機関の便が良い」が25.4%であった。特に「高度な技術を持つ企業が立地している」がひとときわ低い結果となった。



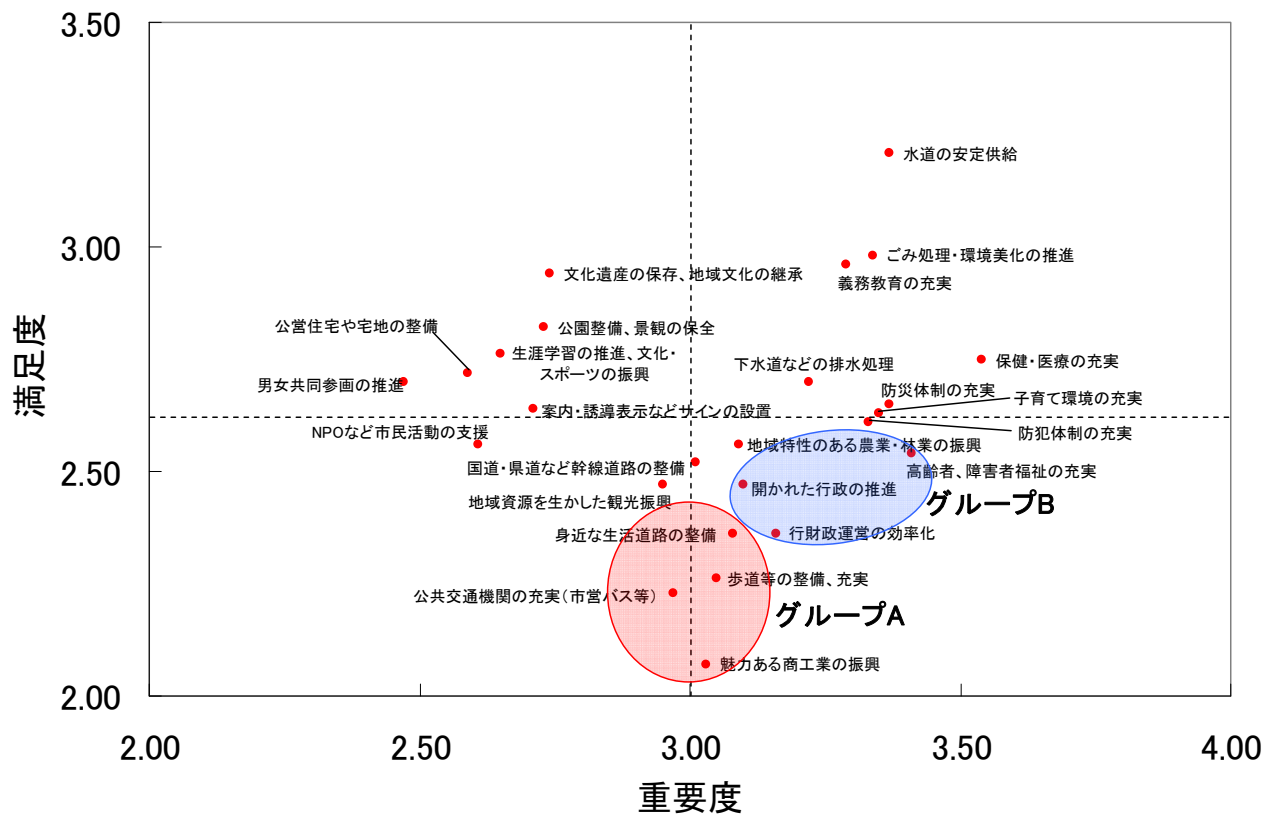
② 山梨市の住みやすさについて

山梨市の住みやすさについてたずねた。「住みやすい」が26.6%、「どちらかといえば住みやすい」が56.2%と、住みやすさに対して肯定的な回答が82.8%を占めた。「どちらかといえば住みにくい」は13.7%、「住みにくい」は2.6%であった。



4. 満足度、重要度等

市が実施する施策にどの程度満足しているのかということと、各施策をどの程度重要であると考えているのかを、満足度と重要度としてたずねた。満足度については、「満足している」、「やや満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4段階で、重要度については、「きわめて重要である」、「かなり重要である」、「まあ重要である」、「あまり重要ではない」の4段階でたずねた。集計に当たっては、満足度、重要度が高いほうから低いほうに向かって、4点、3点、2点、1点を割り振り、各施策について回答者の平均点を算出した。計算の結果を、重要度を横軸に、満足度を縦軸にとり、散布図形式で示した。なお、図中に示した点線は、満足度、重要度の全体の平均値を表している。



グループAは、満足度が特に低い施策で、以下の4施策が含まれる。

施策	満足度の点数
魅力ある商工業の振興	2.07
公共交通機関の充実(市営バス等)	2.23
歩道等の整備、充実	2.26
身近な生活道路の整備	2.36

グループBは、市民の重要度の認識は高いものの、満足度がやや低い施策で、以下の3施策が含まれる。

施 策	満足度の点数	重要度の点数
行財政運営の効率化	2.36	3.16
開かれた行政の推進	2.47	3.10
高齢者、障害者福祉の充実	2.54	3.41

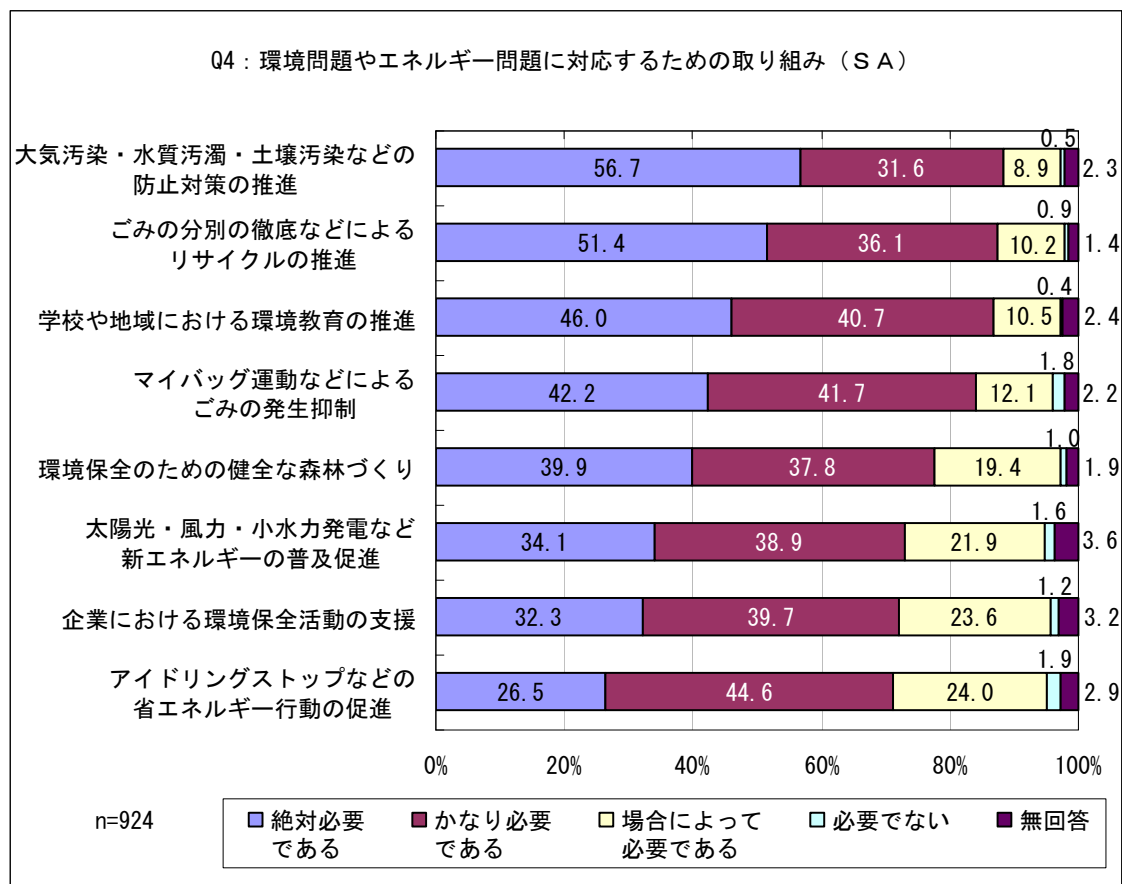
グループAとグループBに含まれる施策は、今後の事業展開について、十分議論をして進めていくべきである。

5. 分野ごとの各施策の必要性

設問ごとに、「絶対必要である」、「かなり必要である」、「場合によっては必要である」、「必要でない」の4段階でたずねた。

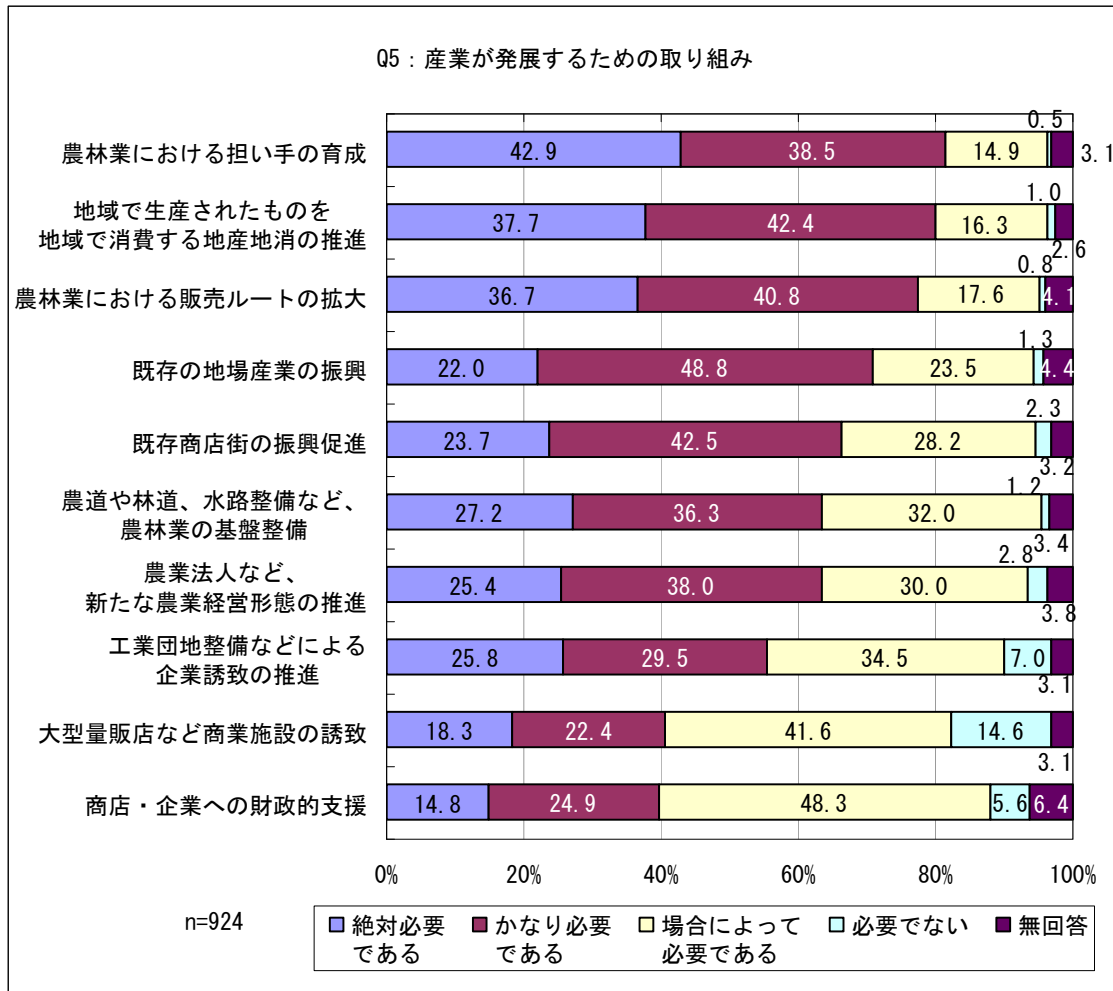
① 環境問題やエネルギー問題に対応するための取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が高かったのは、「大気汚染・水質汚濁・土壌汚染などの防止対策の推進」の88.3%、「ごみの分別の徹底などによるリサイクルの推進」の87.5%、「学校や地域における環境教育の推進」の86.7%であった。

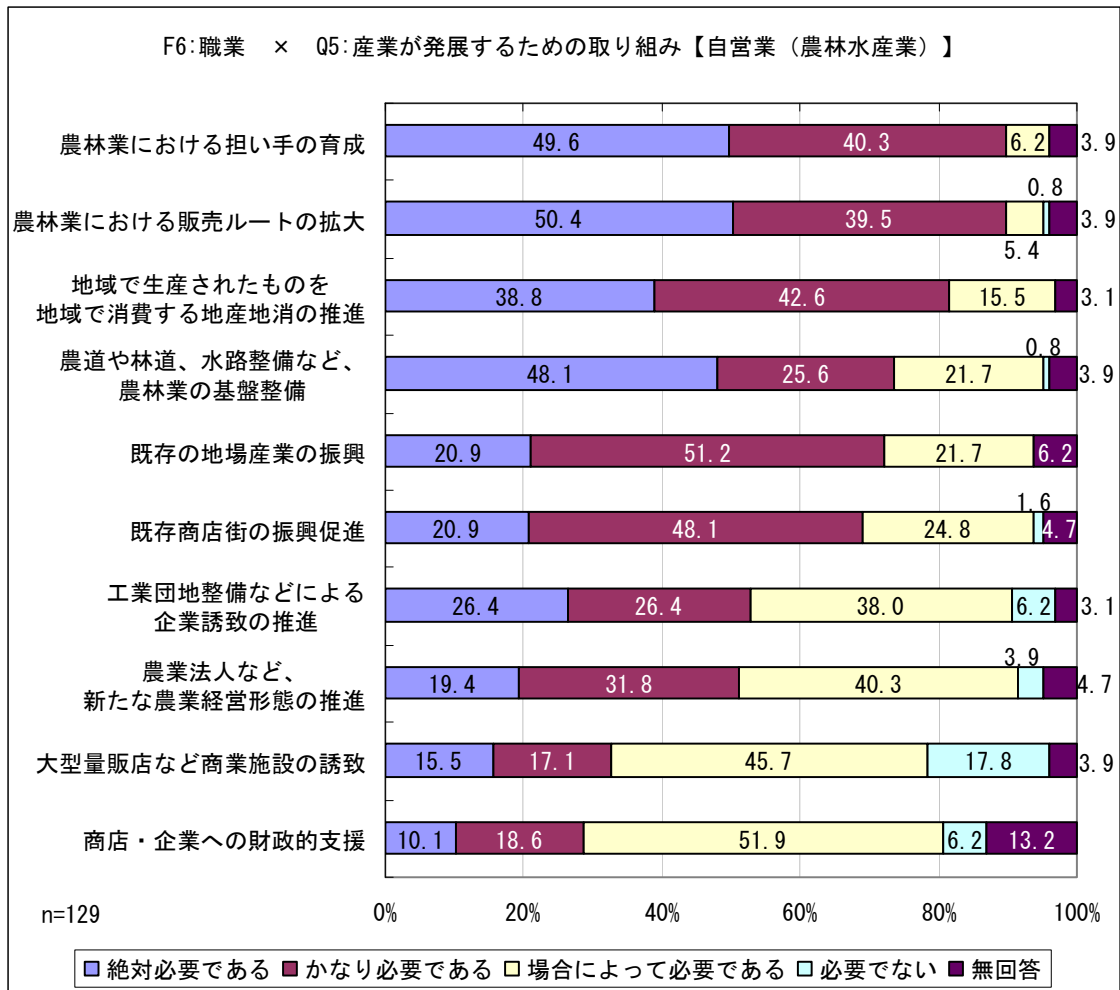


② 産業（農林業・商業・工業）が発展するための取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が高かったのは、「農林業における担い手の育成」の81.4%、以下「地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の推進」の80.1%、「農林業における販売ルートの拡大」の77.5%の順となっている。

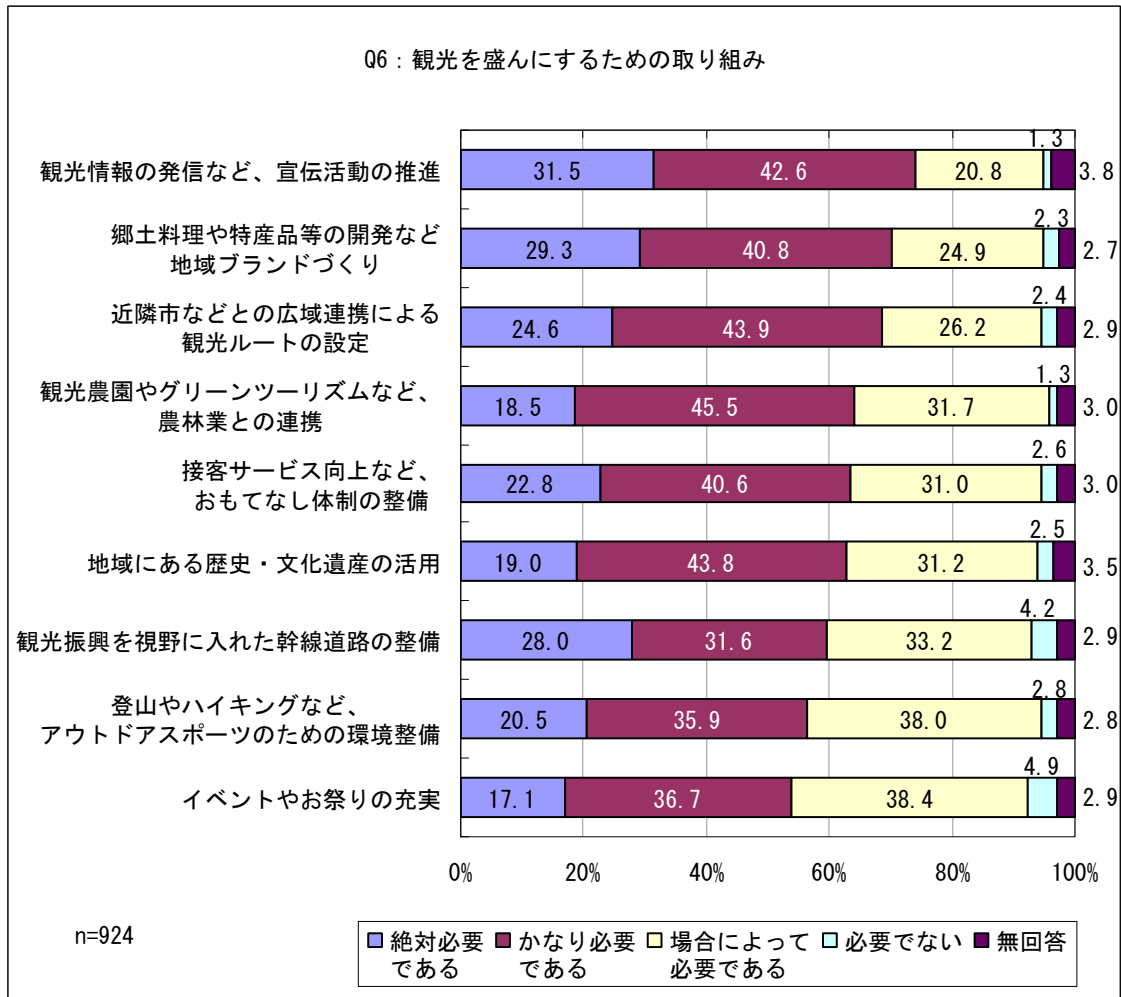


農林水産業を営む者に限定した場合においても、「絶対必要である」「かなり必要である」の合計が最も高いのは「農林業における担い手の育成」の89.9%となり、農林業における後継者不足解消が重要な課題であることが見受けられる。



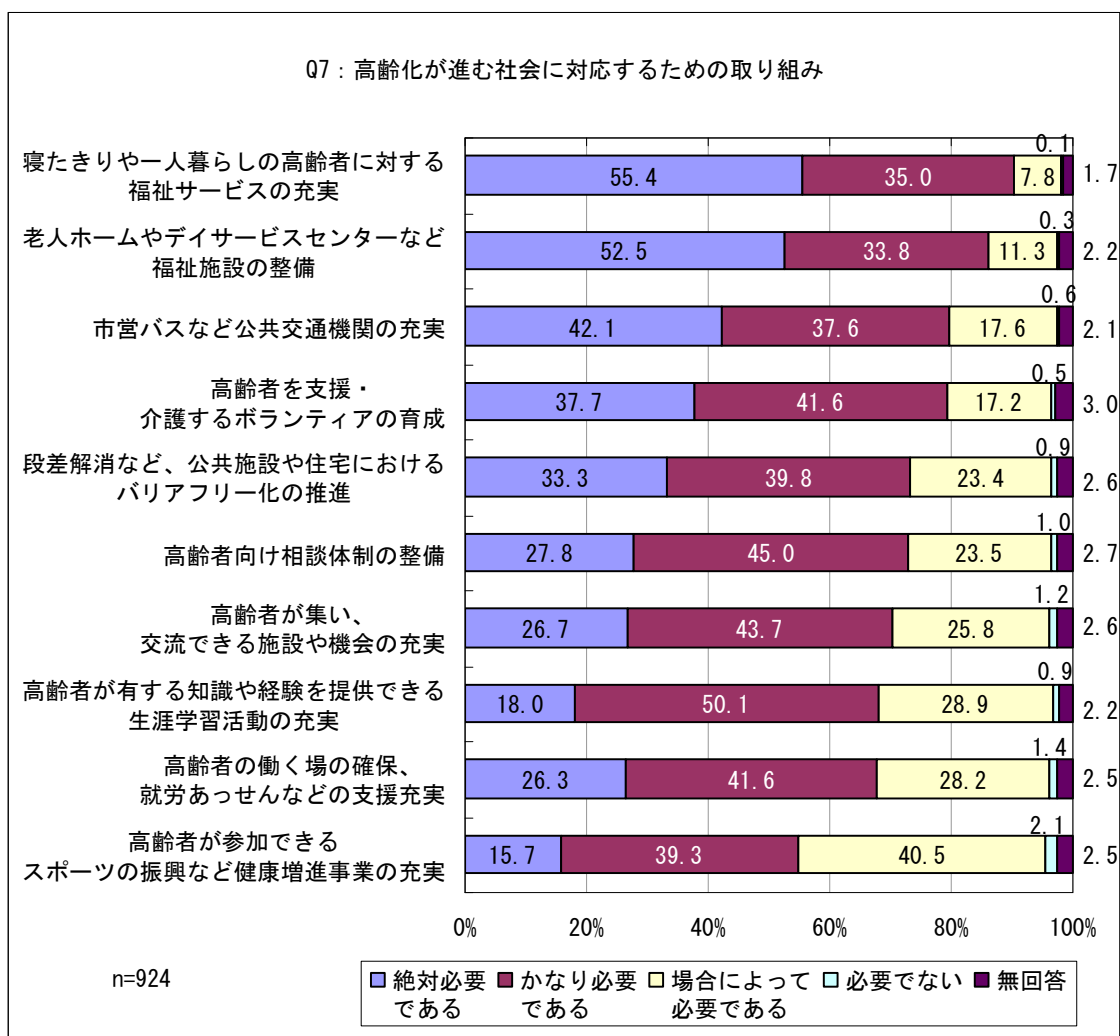
③ 観光を盛んにするための取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「観光情報の発信など、宣伝活動の推進」の74.1%であり、以下「郷土料理や特産品等の開発など地域ブランドづくり」(70.1%)、「近隣市などとの広域連携による観光ルートの設定」(68.5%)と続く。この結果から、観光で大事なものは、地域情報発信や地域ブランドなど地域のイメージであると考えていることがわかった。



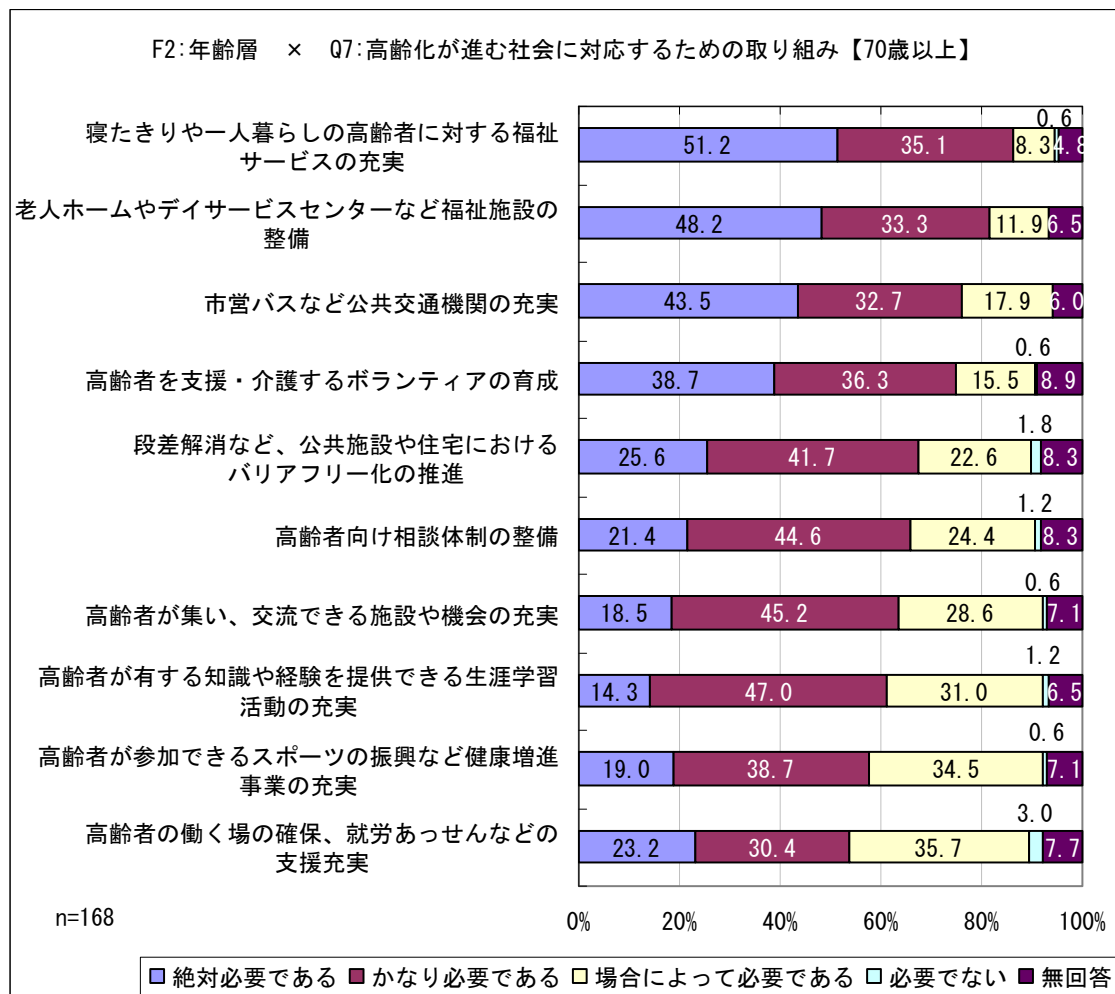
④ 高齢化が進む社会に対応するための取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値は、「寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実」(90.4%)、「老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備」(86.3%)、「市営バスなど公共交通機関の充実」(79.7%)の順となっている。

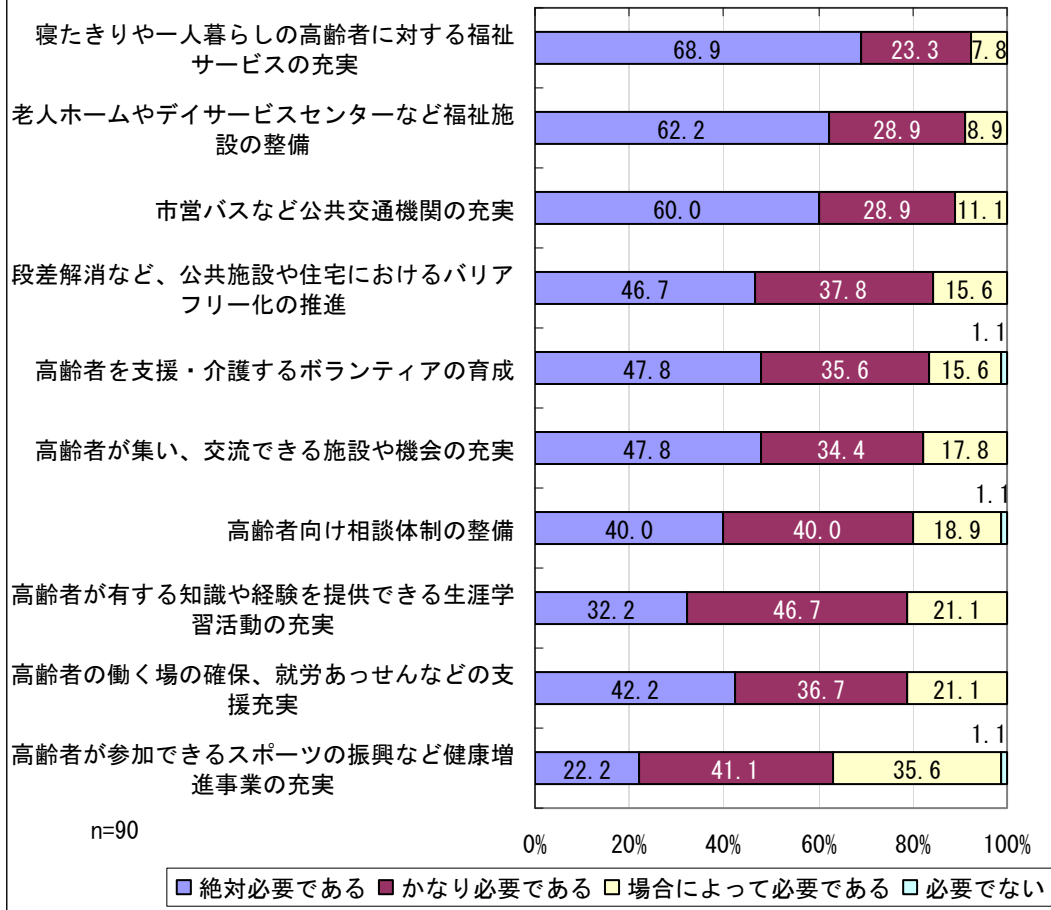


同じ質問で年齢別（70歳以上、20歳代）で見た場合でも、「寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実」（86.3%、92.2%）が最も高く、次に「老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備」（81.5%、91.1%）、「市営バスなど公共交通機関の充実」（76.2%、88.9%）の順となっている。

両世代ともに全体の傾向に近似しており、世代間での考え方に大きな違いは見受けられない。

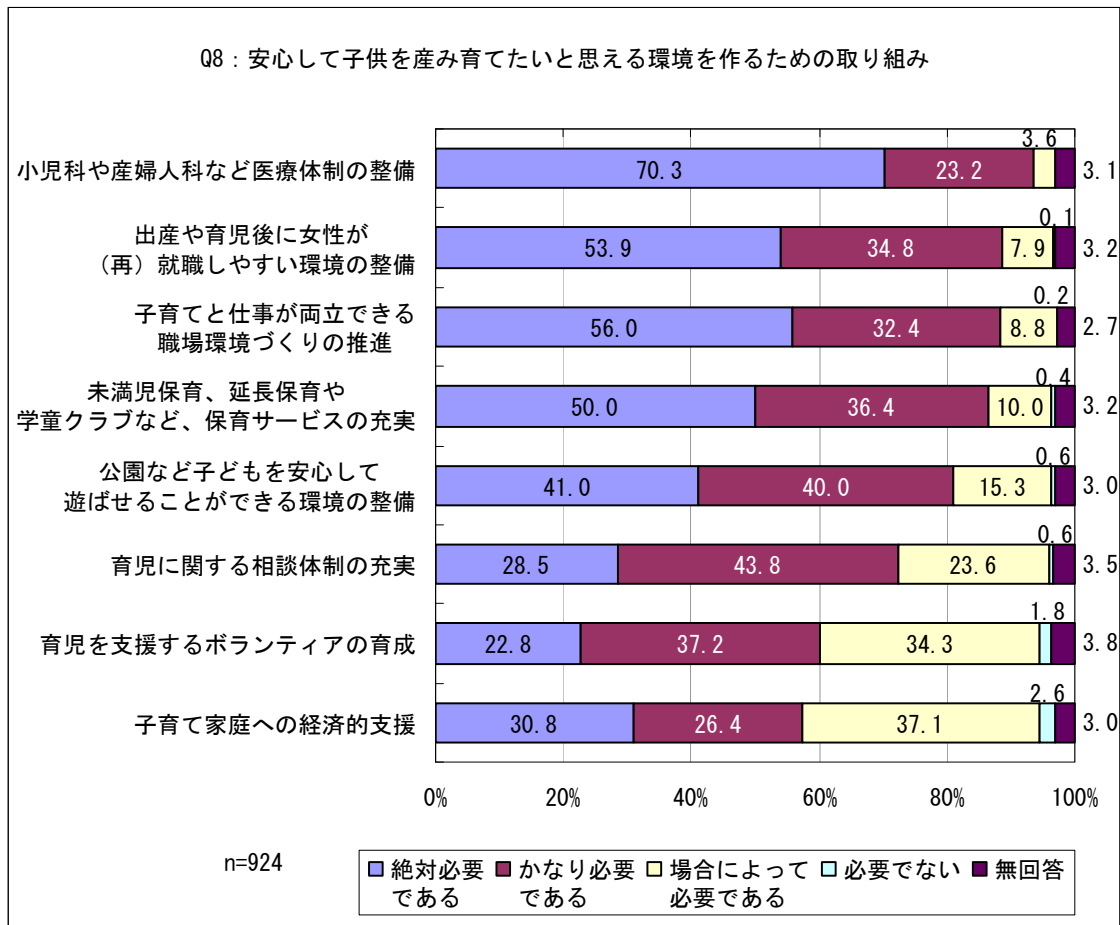


F2:年齢層 × Q7:高齢化が進む社会に対応するための取り組み【20歳代】



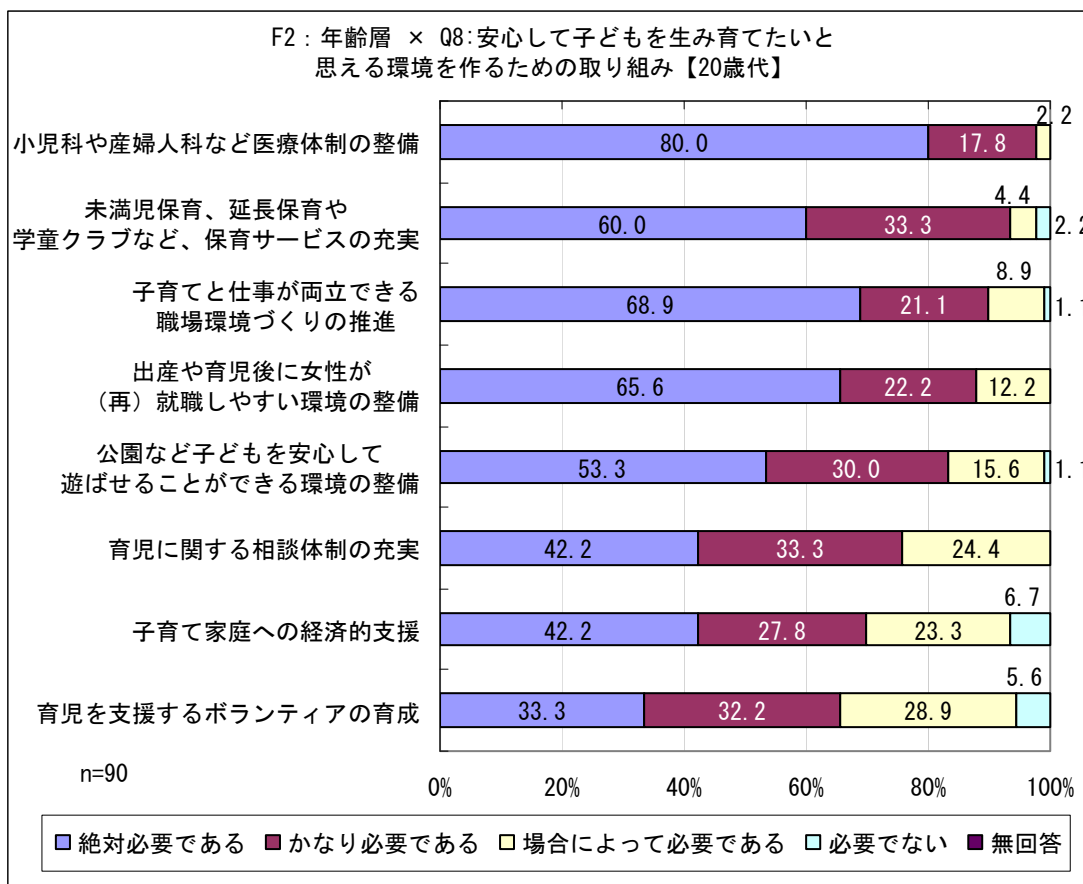
⑤ 安心して子どもを産み育てたいと思える環境を作るための取り組み

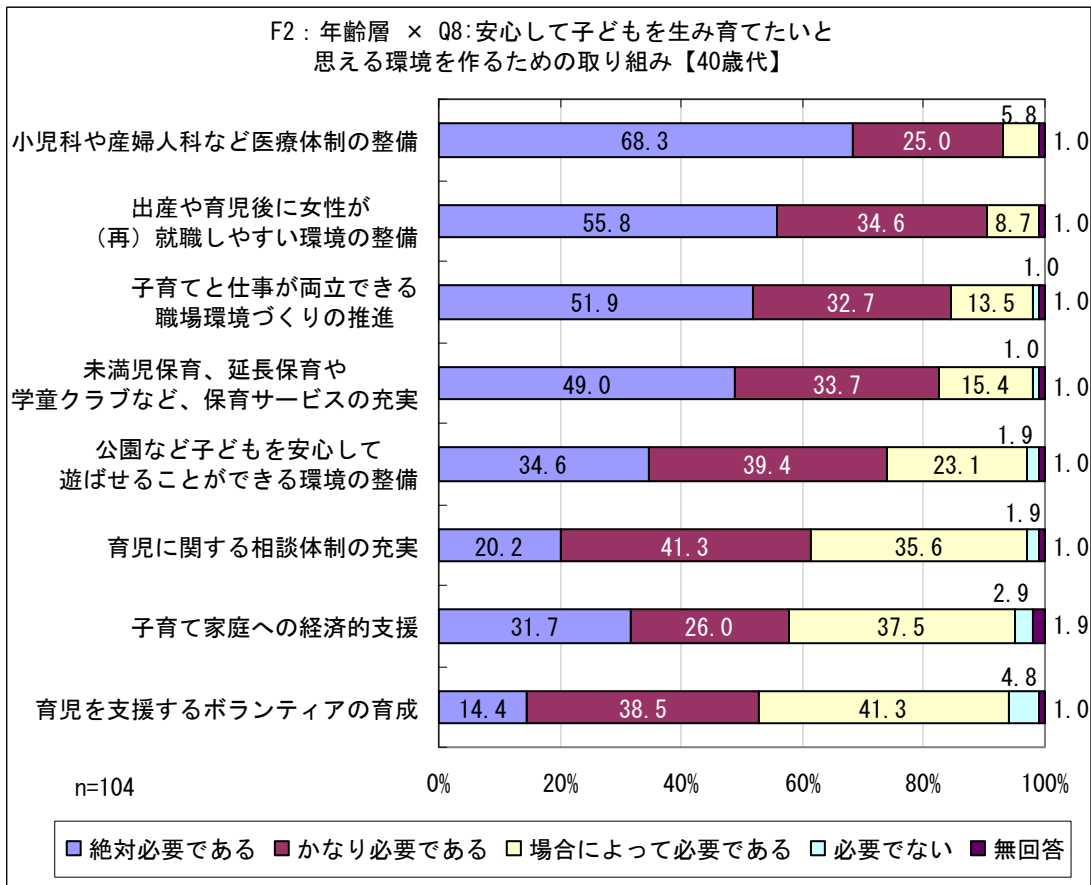
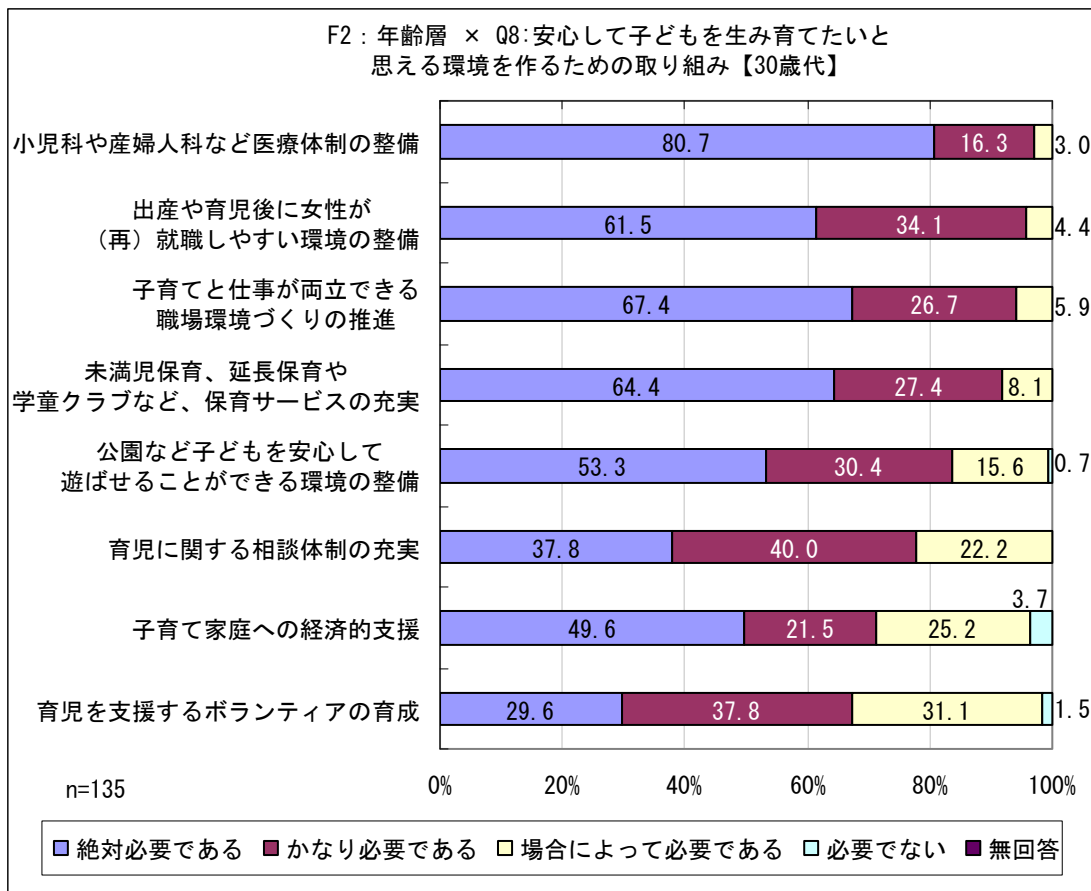
「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「小児科や産婦人科など医療体制の整備」(93.5%)であり、次に「出産や育児後に女性が(再)就職しやすい環境の整備」(88.7%)、「子育てと仕事が両立できる職場環境づくりの推進」(88.4%)と続いている。全国的な社会問題となっている産婦人科医不足やワーク・ライフ・バランスの実現などを反映しているものと思われる。



同じ質問を、20、30、40歳代に限定すると、「絶対必要である」「かなり必要である」の合計で最も高いのは、「小児科や産婦人科など医療体制の整備」で特に20、30歳代では97%以上と極めて高い数値となった。子育て世代にとって、この問題は、母胎や生まれてくる子供の命に係わる最重要課題であることを示している。

また、「出産や育児後に女性が（再）就職しやすい環境の整備」については、20歳代では87.8%と4番目に高い数値をしめしているが、30歳代では95.6%、40歳代で90.4%といずれの年代も2番目に必要度の高いことを示しており、出産や子育て後の就職について不安を抱く傾向がみられる。



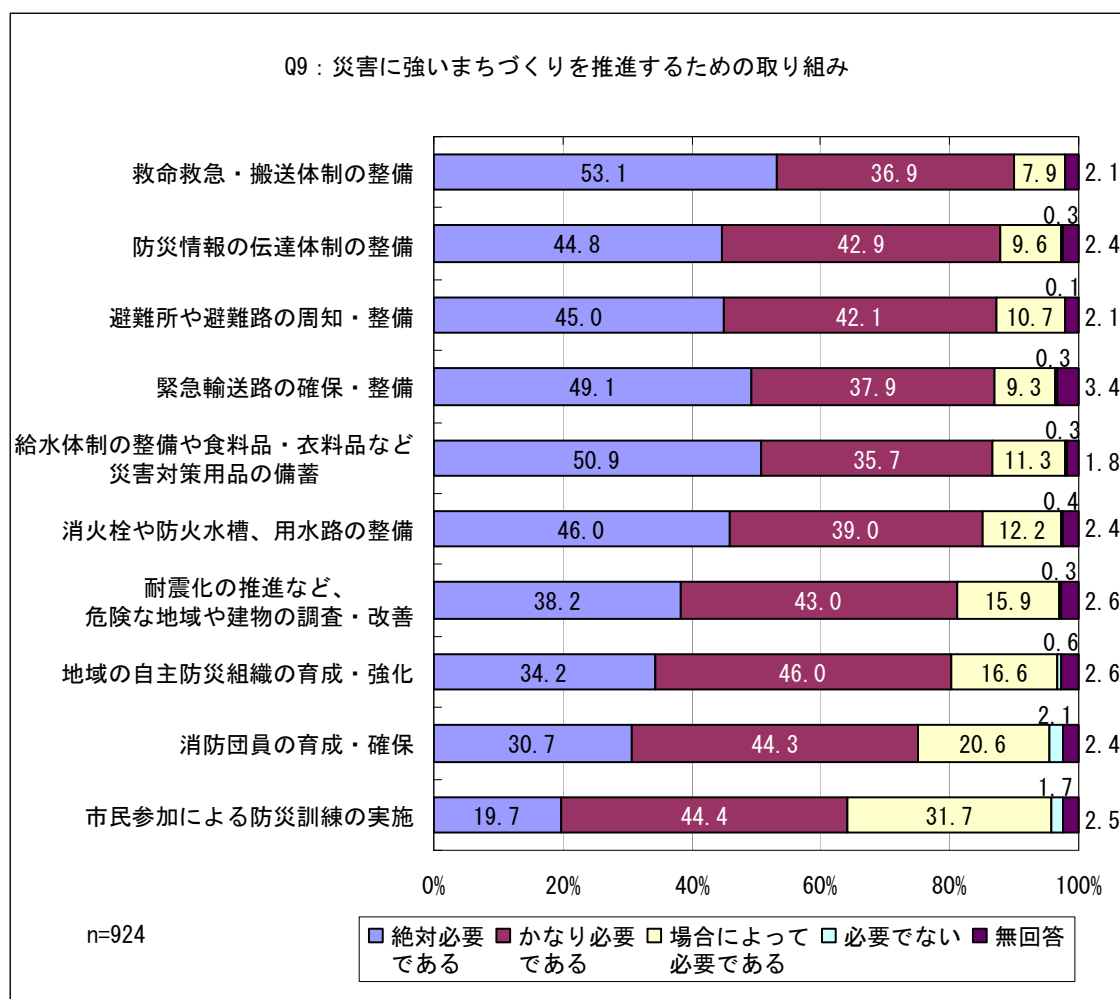


⑥ 災害に強いまちづくりを推進するための取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「救急救命・搬送体制の整備」(90.0%)で、以下「防災情報の伝達体制の整備」(87.7%)、「避難所や避難路の周知・整備」(87.1%)となっている。

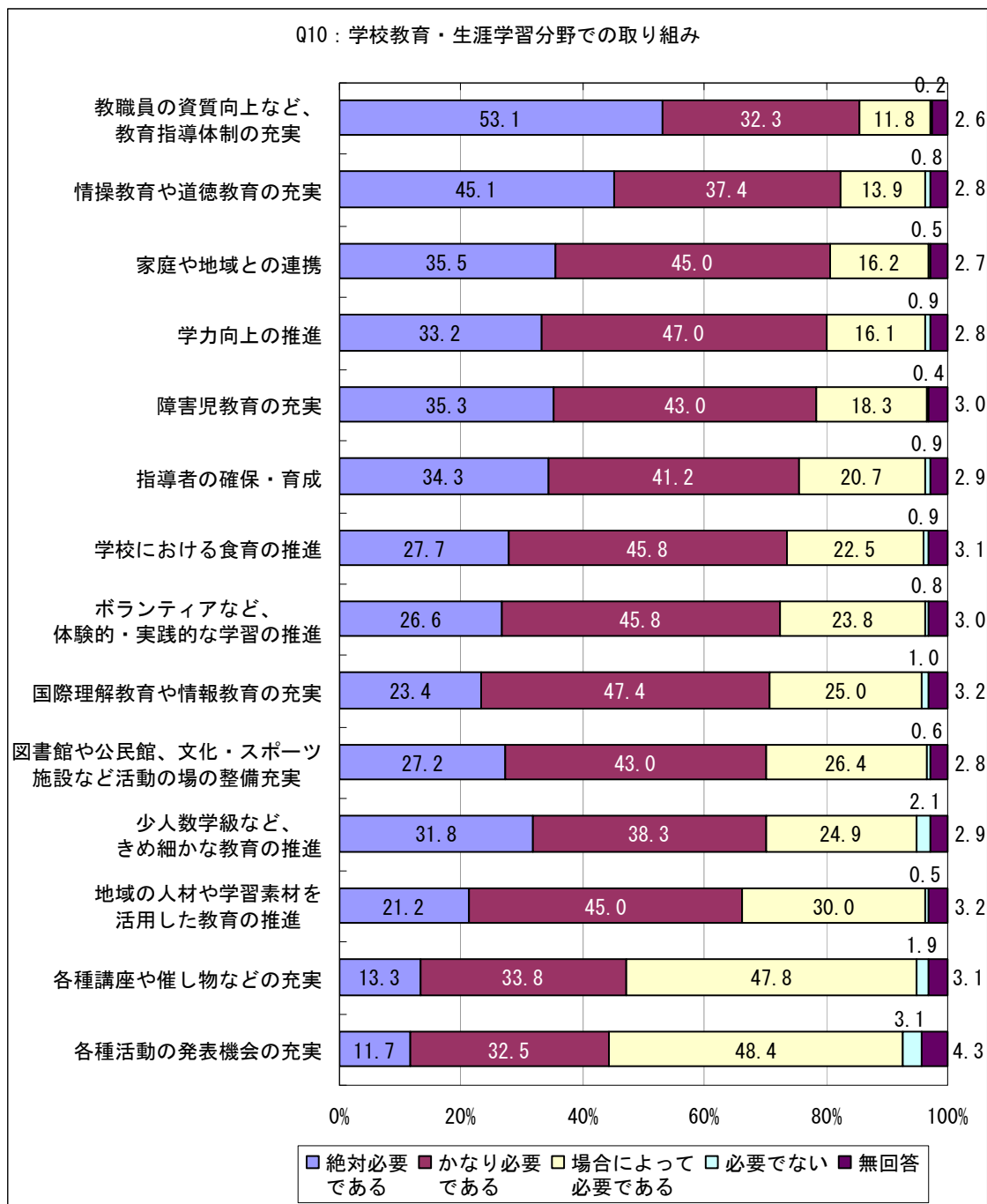
また、85%以上を示したものとしては、上記のほか「緊急輸送路の確保・整備」(87.0%)、「給水体制の整備や食料品・衣料品など災害対策用品の備蓄」(86.6%)、「消火栓や防火水槽、用水路の整備」(85.0%)があげられる。

直接生命に係る施策についての危機意識はかなり高いが、「市民参加による防災訓練の実施」(64.1%)などの自主防災意識は、決して高いものとは言えない結果となった。



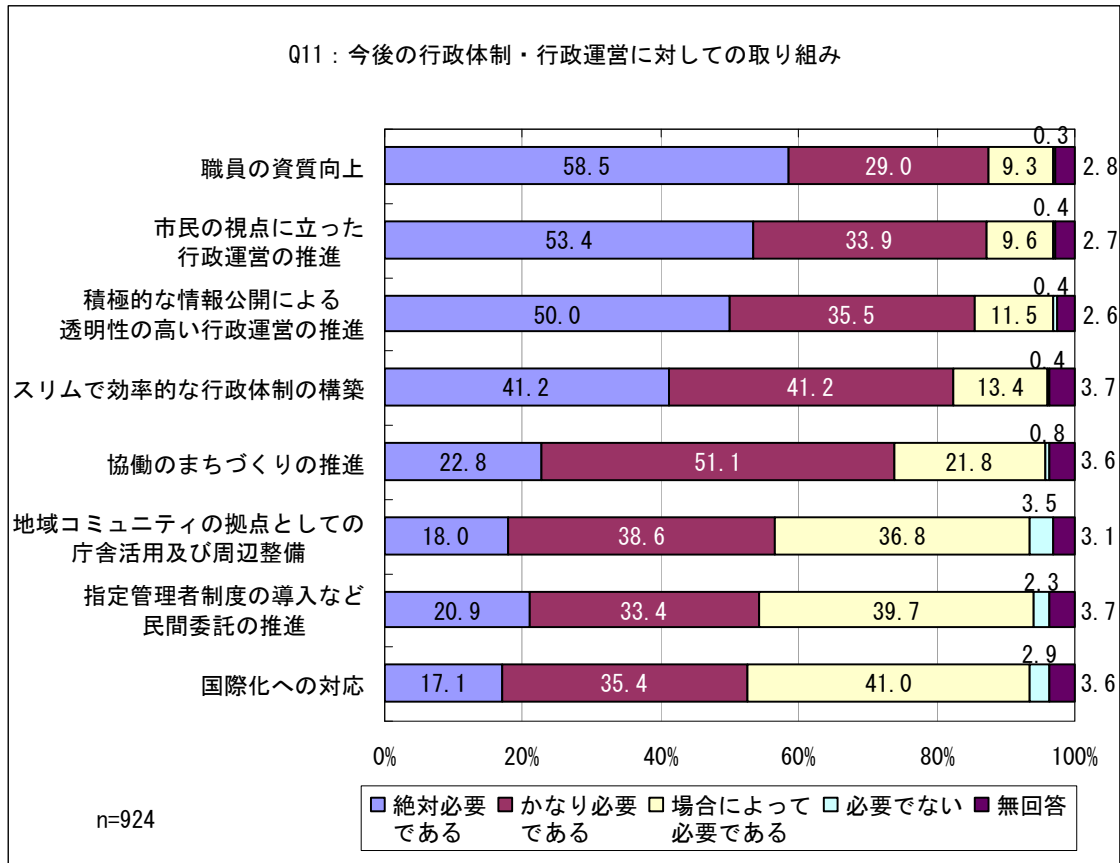
⑦ 学校教育・生涯学習分野での取り組み

「絶対必要である」及び「かなり必要である」を合算した場合、ニーズが高い項目としては、「教職員の資質向上など、教育指導体制の充実」(85.4%)、「情操教育や道徳教育の充実」(82.5%)、「家庭や地域との連携」(80.5%)の順となっている。



⑧ 今後の行政体制・行政運営に対する取り組み

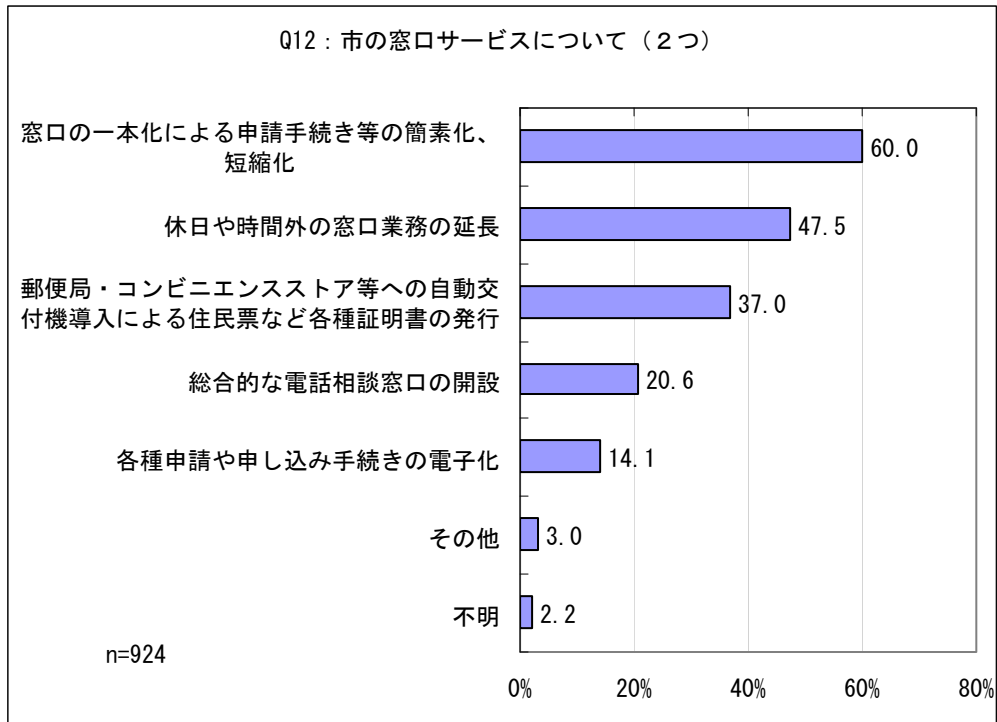
「絶対必要である」及び「かなり必要である」を合算した場合、ニーズが高い項目は、「職員の資質向上」(87.5%)、「市民の視点に立った行政運営の推進」(87.3%)、「積極的な情報公開による透明性の高い行政運営の推進」(85.5%)となっている。



6. 市民と行政とのあり方について

① 市の窓口サービスについて

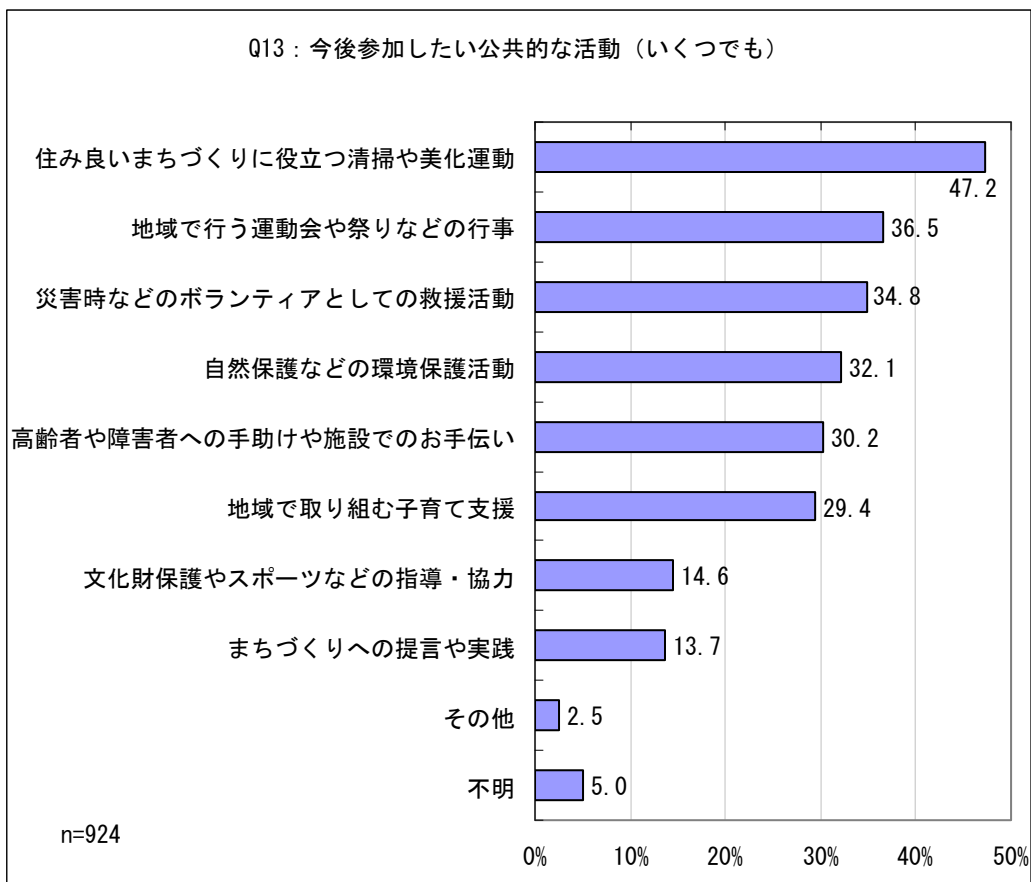
「市の窓口サービスの向上について、どのようなことを望むか」という質問に対しての回答は以下のとおりである。「窓口の一本化による申請手続き等の簡素化、短縮化」(60.0%)、「休日や時間外の窓口業務の延長」(47.5%)を望む割合が高く、窓口サービスに対する市民の期待感が示された結果となっている。



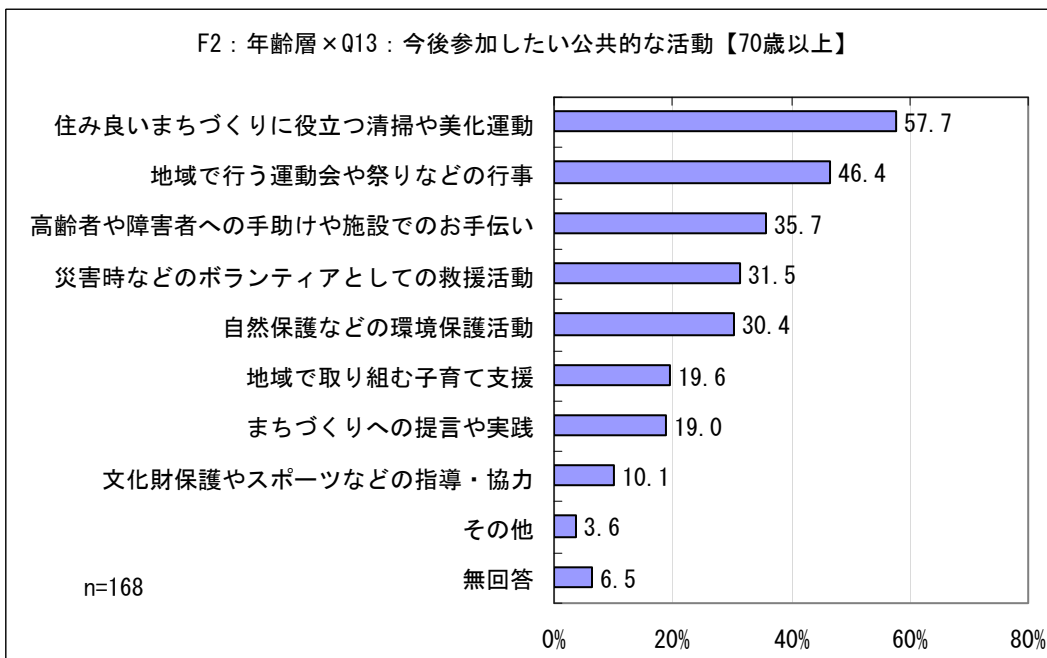
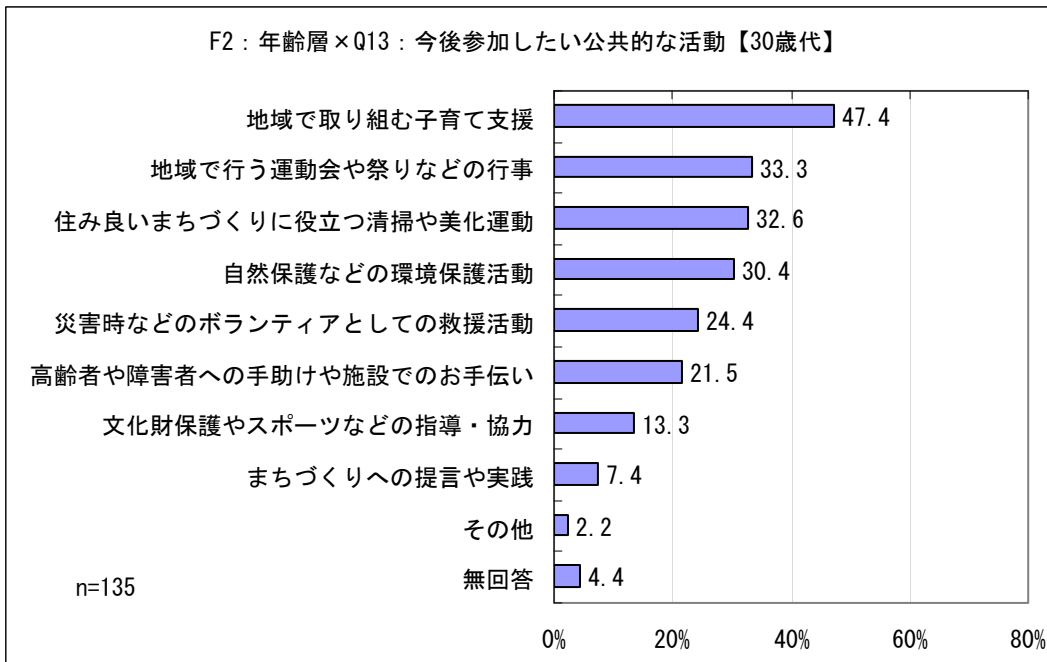
② 今後参加したい公共的な活動

住民と行政との協働の可能性をみる「今後、どのような公共的な活動に参加したいと考えるか」という問いに対しては、「住み良いまちづくりに役立つ清掃や美化運動」(47.2%)が最も高く、以下「地域で行う運動会や祭りなどの行事」(36.5%)、「災害時などのボランティアとしての救援活動」(34.8%)の順となっている。

公共的な活動として、地域の環境美化活動などに意欲を示していることがわかったが、一方で、地域ガバナンスを展開していくうえで大切となる「まちづくりへの提言や実践」(13.7%)が低い結果となった。

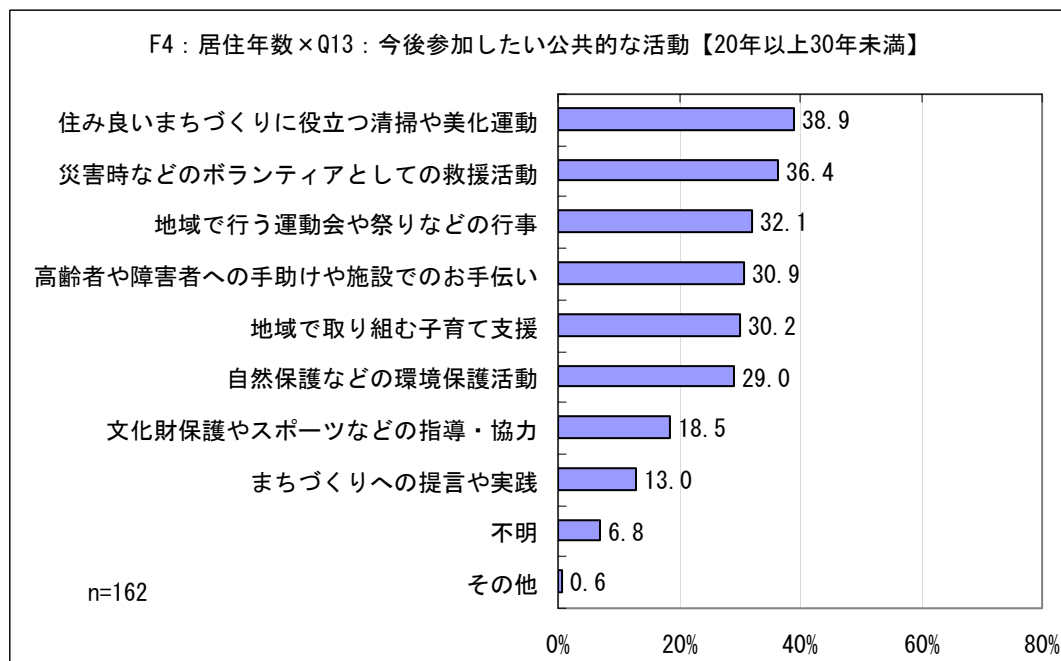
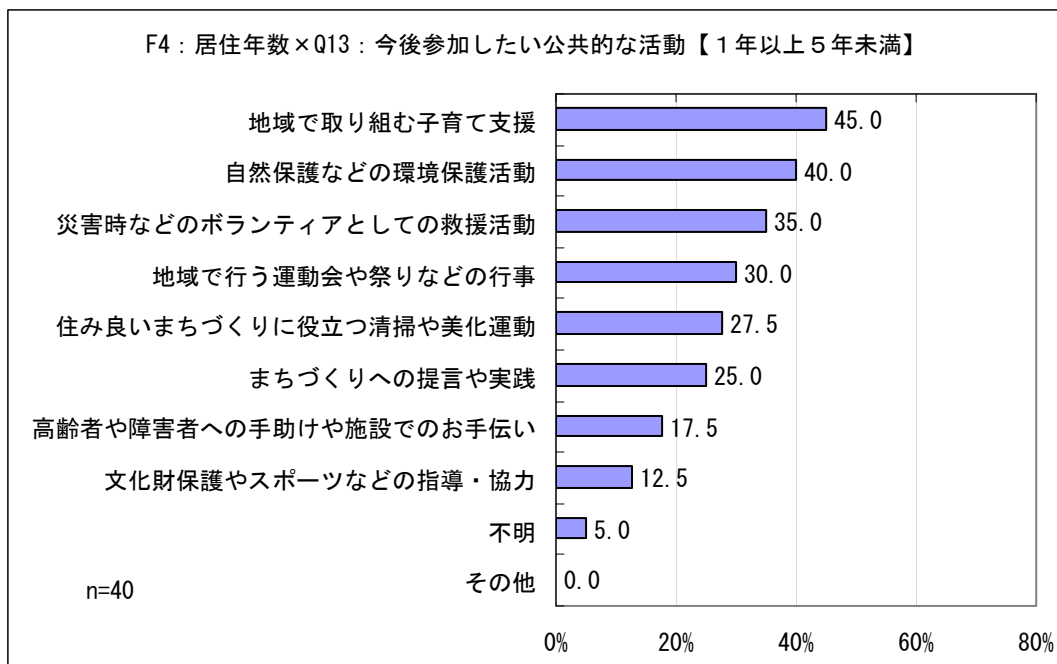


同じ質問を 30 歳代と 70 歳以上の年代別でみた場合、「住み良いまちづくりに役立つ清掃や美化運動」については、30 歳代では 32.6%と低く、70 歳以上で 57.7%と高い数値を示している。一方、「地域で取り組む子育て支援」に対しては、逆に、30 歳代で 47.4%、70 歳以上では 19.6%となっており、ライフステージにより対照的な結果となった。



また、居住年数（1年以上5年未満、20年以上30年未満の別）でみた場合、比較的居住歴が浅い1年以上5年未満の居住者層は「地域で取り組む子育て支援」（45.0%）がもっとも多くなっている。

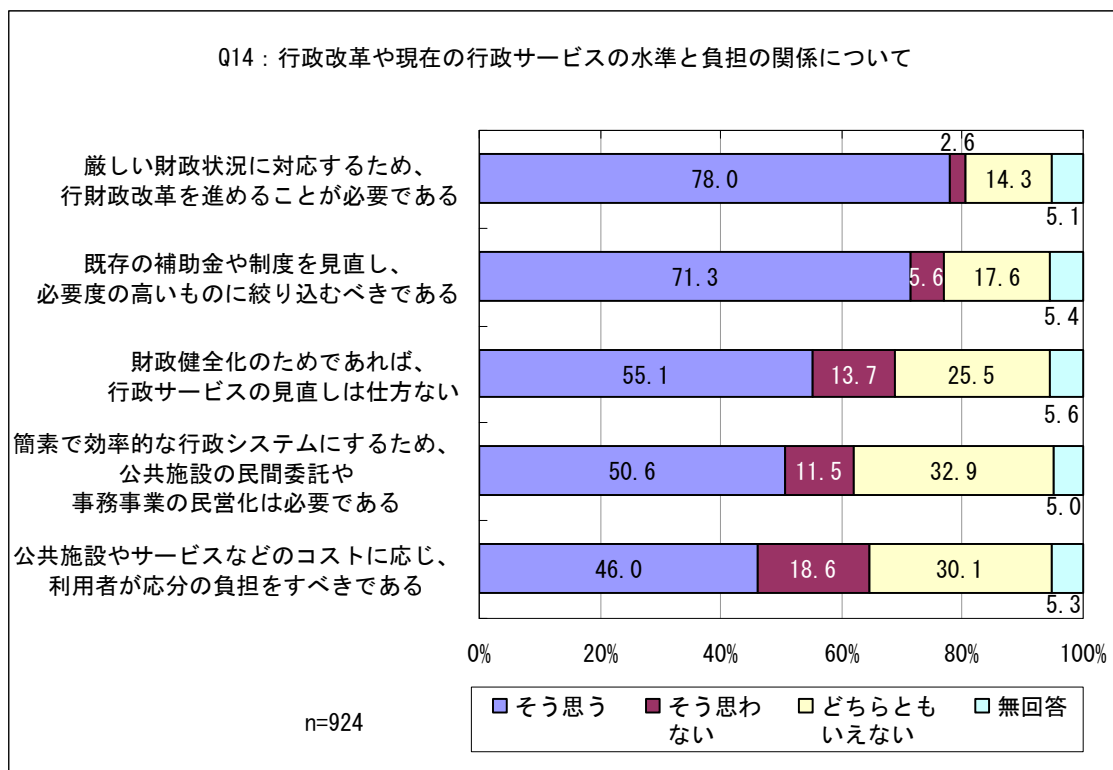
一方、居住歴がある程度長い20年以上30年未満の居住者層では「住みよいまちづくりに役立つ清掃や美化運動」（38.9%）をあげている。



③ 行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係について

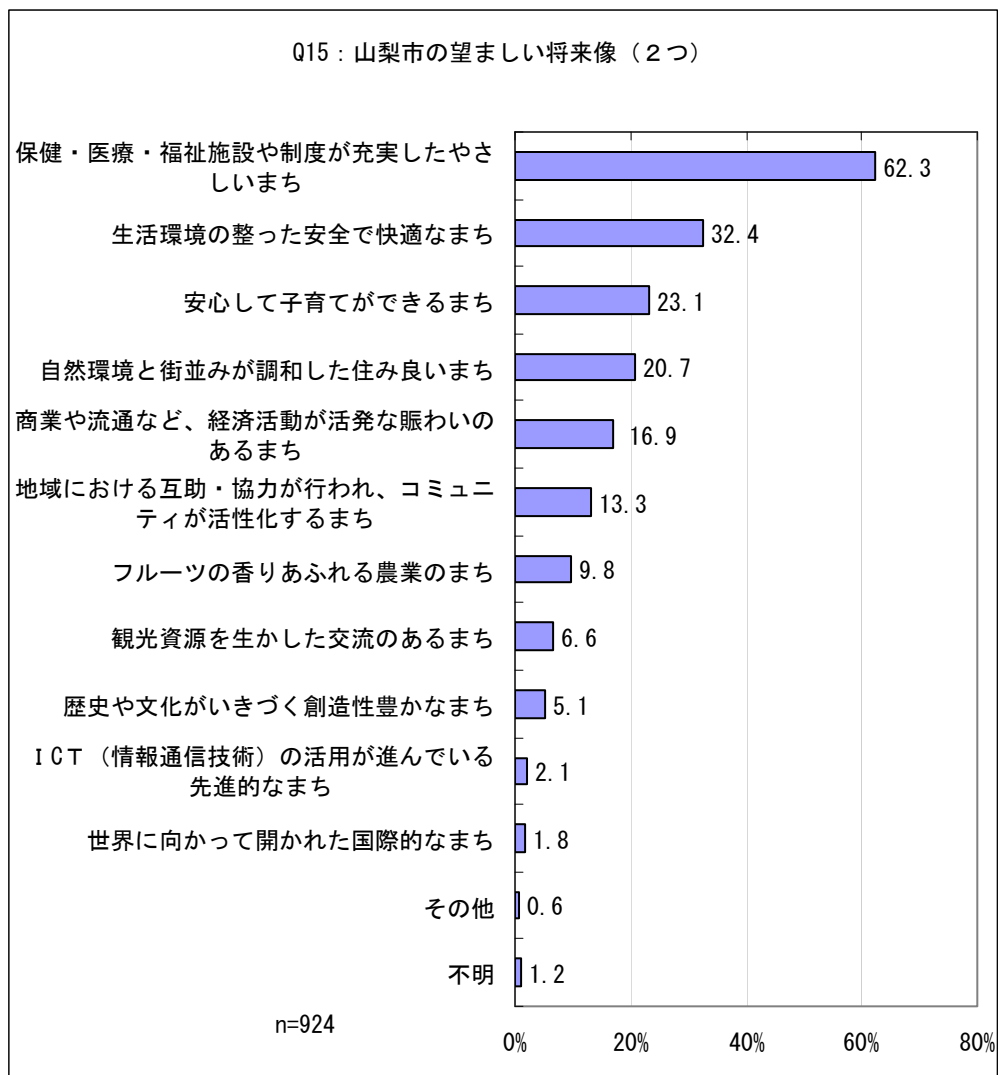
昨今の財政が厳しい中、「行財政改革」・「行政サービスの水準と負担」についての市民の意向を調査した問いでは、全ての項目において「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回る結果となった。

中でも「厳しい財政状況に対応するため、行財政改革を進める必要がある」、「既存の補助金や制度を見直し、必要度の高いものに絞り込むべきである」の項目については、ともに7割を超える支持があった。



7. 山梨市の将来像や望ましい地域イメージについて

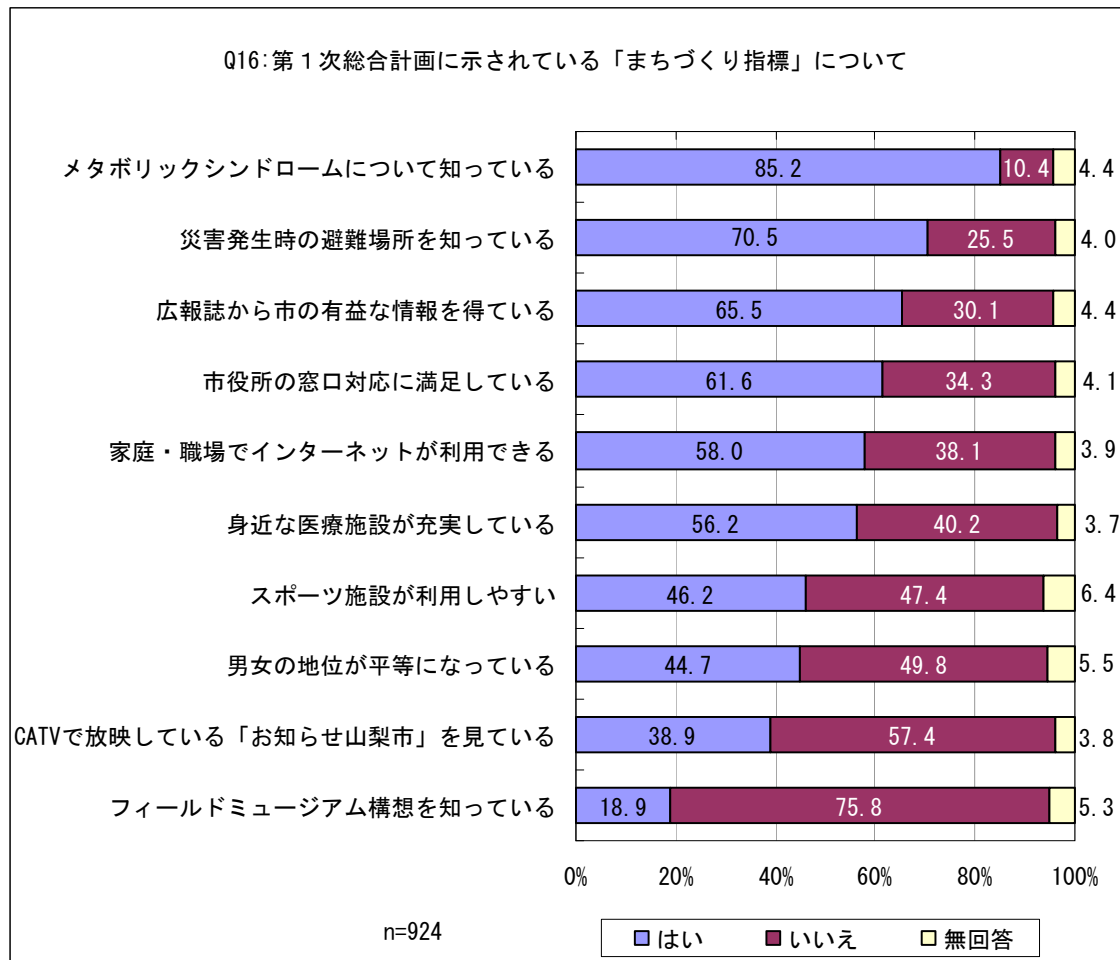
山梨市の将来像として、「10年後どのようなまちであって欲しいか」という問いに対して、「保健・医療・福祉施設や制度が充実したやさしいまち」を望む声が6割を超え（62.3%）、以下「生活環境の整った安全で快適なまち」（32.4%）、「安心して子育てができるまち」（23.1%）、「自然環境と街並みが調和した住み良いまち」（20.7%）を望む声が高かった。保健、福祉、医療、子育てといった生活密着型の政策を望んでいることがわかる。



8. まちづくり指標について

認識度が6割を超えたのは、「メタボリックシンドローム」(85.2%)、「災害発生時の避難場所」(70.5%)、「広報誌から市の有益な情報」(65.5%)、「市役所の窓口対応」(61.6%)であった。

また、一方で「フィールドミュージアム構想」の認識度は18.9%にとどまった。



9. 男女共同参画について

「男女共同参画」という言葉の認知度は80.5%と非常に高くなっている。しかし、家庭や職場などにおける男女の平等感を質問したところ、「家庭生活」は約半数の54.2%が平等であると感じているが、「地域」(41.6%)及び「職場」(34.8%)は低い数値にとどまった。

このことは、意識の上では男女平等であると認識しているが、家事・育児でのアンバランスな役割分担や、女性に対して格差が残る職場環境の現状を反映した結果と思われる。

